

## 関係を認識するということ —映画『好きだ、』の分析と解釈を手掛かりとして

梶矢 桂一

### On Knowledge as Relation among Objects —An analysis and interpretation of the film “su-ki-da”<sup>1)</sup>

Keiichi MASUYA

Osaka University of Pharmaceutical Sciences, 4-20-1, Nasahara, Takatsuki, Osaka 569-1094, Japan

(Received October 19, 2007; Accepted November 19, 2007)

In this thesis I intend to show that the act of knowing in the epistemological sense is to know the relation among objects and to make clear how such knowing is done.

I take a Japanese film, “su-ki-da”, which was released in 2005, as a concrete example to achieve this goal and make a detailed analysis of its cuts from a spectator’s point of view. Then a discussion is made as to how the spectators come to know and understand the whole story by connecting an individual cut with one or several other cuts and also by relating various objects in a cut to each other.

The analysis and discussion conducted here, I am sure, clarify a great deal of what is meant by *knowing the relation among objects*.

**Key words**—“su-ki-da”; film; epistemology

## 1. はじめに

人間の認識行為とは、いかなる行為であろうか。それは、関係を認識することである。認識対象は、常に、或る関係の中で認識される。

例えば、良寛の書「安幾裳や 宇羅散悲志久 楚奈利尔け留 以散可弊理 な無久散能 意ほり耳」

(秋もやや、うらさびしくぞなりにける、いざかへりなむ、草の庵に<sup>2)</sup>を見て、そこに「秋萩帖」(東京国立博物館所蔵・国宝)の草仮名を見出すかもしれない。この良寛の書に見られる草仮名の字体の多くは、「秋萩帖」のそれと極めて似ており、又良寛が「秋萩帖」に学んだことはよく知られている。人は、良寛の書において、「秋萩帖」を認識す

大阪薬科大学(非常勤講師) e-mail: paideia@gly.oups.ac.jp

1) “su-ki-da”は、映画『好きだ、』の公式ホームページ(<http://www.su-ki-da.jp/>)の表記に基づいている。欧文表記が、“I love you”でなくて“su-ki-da”であるのは、その方が、映像による「好きだ」の表現に近いと考えられるからであろう。“su-ki-da”は、シーン27のカット512において、寝台のヨースケに向かってユウが口の形だけで「好きだ」を示すときの音を表記したものであると考えられる。そこに示されるユウの口の動きの映像にこそ、「好きだ」は表現されている。この映画は、ユウとヨースケの間の微妙な感情の綾など、内面的な関係の変化を、映像によって描き出すことを目指している。それは、概念的な次元において表現され得ないものである。だから、この映画の表現の本質は、いかなる概念的なものによっても把握されない。それ故、“I love you”という言語的表現の枠の中にあるものでなくて、“su-ki-da”でなければならない。又、日本語のタイトル『好きだ、』において読点が打たれているが、それが句点でなくて読点であるのは、その方が、素直に「好きだ」を言い切らないユウの心を表わすと考えられるからだろう。そして又、「好きだ」が口にされると、既に過ぎ去った17年の歳月やユウの姉の事故などは、もはや取り去ることのできない重いものとしてユウとヨースケの間に横たわっている。それ故、『好きだ、』のタイトルは、単に「好きだ」とは言い切れないものを読点が表して、「好きだ、」なのである。

2) 『良寛墨蹟大観、第四巻、和歌篇(二)』、(中央公論美術出版、東京)1994年、参照。なお、スペースは改行箇所を表す。

るのである。その認識は、良寛の書「安幾裳やゝ…」と「秋萩帖」との関係において成立すると考えられる。

一方で、現存する良寛の「秋萩帖」の臨書と、<sup>3)</sup>「安幾裳やゝ…」とは、別人の書であるかのように異なる雰囲気を持つ。両者の異なり具合に、なぜ同じ人の手になるものがそれほどまでに違うのだろうか、色々と考えをめぐらせたりするかもしれない。そのようなことを考えるのならば、それは、良寛の臨書を知る人故の認識に、基づくと言えよう。良寛についての知識を持たない人が、良寛の書「安幾裳やゝ…」を見たならば、それは上記とは全く別の、単なる草仮名の書としてしか認識されないかもしれない。草仮名の知識がなければ、そこには、ただ、扇子に書かれた墨蹟の、芸術的な二次元の空間が広がるだけなのかもしれない。その限り上述の関係は、認識対象に左右されるのではなくて、認識者に依存する。

別の例を考えてみよう。万有引力の法則を表す  $F=G(m_1 m_2) / R^2$ <sup>4)</sup> は、物体に関する一つの認識である。それはしかも、二物体の関係を表している。ある時にはそれは、「物体は重い」ことを言い表すに過ぎないかもしれない。単に個別的な物体について重さを感じる認識者の経験的な認識を表現しているだけなのかもしれない。又一方で、それは、重さを感じるというその都度の個別の経験としてではなく、「あらゆる物体は重い」こととして問題になるのかもしれない。そしてその際一切の経験的なものが捨象された純粋な二物体の関係が考えられているのかもしれない。そのときには、二物体の関係は、前者の場合とは異なる普遍妥当的なものとして表象されるだろう。

認識対象は、認識の起点をなすが、それだけで認識が成立するのではない。認識を成立させる要因が、ただ認識者の外に存在する対象自体に限られるのだとしたら、認識がどのような仕方で成立するとしても、それは常に一義的なものであろう。認識者によって異なるということは、あり得ない。

関係とはどのようなことか。それは、複数のものの関係である。認識とは、複数のものの関係として成立する。しかしながら認識対象が、初めから複数であるのではない。そうではなくて、認識対象は一つである。良寛の書は、ただ一個の、単独の良寛の書として与えられる。そのような良寛の書に対して「秋萩帖」の何かを見るのである。又、或る物体について  $F=G(m_1 m_2) / R^2$  という認識を獲得する場合、万有引力の法則に従って落下する物体が、認識の対象である。それは、認識に先立つ、又認識者の経験に先行する、認識の対象なのである。認識は関係として成立するとしても、関係が対象の側から与えられたりはしない。関係は、認識の際に、認識者によって持ち込まれるのである。

差し当たり、認識とは、対象と認識者の関係の中で成立する、と言える。対象は、このとき、認識者によって、認識が属すべき領野に置かれる。認識とは、対象のあるがままを捉えるのではなくて、認識者によって、対象が認識の領野に置かれることである。松本元によれば、「たとえば外部世界が同じであるとしても、人は生まれ育った過程での経験がそれぞれ異なるので内部世界が違っており、外部世界からの情報に対する応答が異なる」と言われる。<sup>5)</sup> 又、それは、グレゴリーの、知覚として成立する対象 (object explored) は、知覚者の外に実在するもの (reality) とは別のものだと

3) 古谷稔：秋萩帖と草仮名の研究，（二玄社，東京）1996年，226ページ参照。

4)  $F$ は引力を， $G$ は万有引力定数ないし重力加速度を， $m_1$ と $m_2$ はひきつけ合う二つの物体の質量を， $R$ は二物体間の距離を表す。

5) 松本元：脳・心・コンピュータ，都甲潔・松本元編『自己組織化—生物にみる複雑多様性と情報処—』，（朝倉書店，東京）1996年，180ページ。

いう主張としても解釈可能かもしれない。<sup>6)</sup>

認識とは、対象を起点として認識者の領野が広がることである。認識者は自らの経験に基づく「内部世界」から導き出された「世界」の広がりの中に、認識対象を据える。しかしながらその一方で、その「世界」の広がりには、依然として対象に導かれるのだとも言える。少なくとも、それは、認識者の恣意によって成り立つのではない。それどころか、認識対象を、認識者が一定の領野に据えることは、認識対象によって触発され促される行為だと言える。それは認識者の自己が触発され、認識に先立って自己を限定する仕方で成立する。<sup>7)</sup> 何か認識されるとは、対象が認識者の認識の下に従わされなければならないが、このとき、認識者の自己が認識に先立って限定されるべく触発される。

そのような「世界」の中で認識された対象は、認識者の自己の一部と関わっている。認識者は、対象において自己の何かを見るのであり、良寛の書の認識において、認識者の既存の経験が認識対象に関係付けられるのである。その限り、「世界に対する我々のアクセスは常に仲介されたアクセス」<sup>8)</sup>なのであり、認識者の認識能力や神経システムによって、対象は「仲介」されねばならない。この「仲介」は、対象の触発によって限定された認識者の自己の、能力やシステムによる仲介である。そのようにして、認識対象は認識者の既存の経験と関係付けられ仲介されるのである。

本稿では、対象を起点として広がる「世界」の広がり、即、映画表現として成立していると考

えられる映画『好きだ、』（監督・石川寛／2005年、日本）を、鑑賞者の視点から分析し、人間の認識とはどのようなものなのかを論じたい。

## 2. 『好きだ、』の分析

この映画の全体の構成は大きく二つに分けることが出来る。ユウとヨースケの高校生の時を描く前半部、17年後に二人が再会する後半部、の二つである。前半部は映像を中心としてストーリーが構築される。これに対して後半部は、前半部に比べるとストーリーは音に依存して成立している。前半部の94に見られる流し撮りや97における多重露出による映像効果は、前半部の、映像に依拠したストーリー構築をよく特徴付けるものである。流し撮りの箇所ではユウの足音が表現されず、そのことが逆に表現効果を増大させるのだが、音だけを頼ってユウが去ることを把握するのは不可能である。97の、95を再度重ねる多重露出による表現箇所も、鑑賞者が音を手掛かりにしてストーリーを捉えることは全く出来ない。この他、前半部の随所に配置される空のカットは、鑑賞者の連想記憶のきっかけを作り出し、ユウやヨースケの心の表現に関わっている。このような感情表現を、映像なしに、音のみから解釈することはできないし、むしろ又このような感情表現としての映像表現が、前半部ではストーリーと表裏一体の関係になっている。一方で、後半部が、ラジオドラマのごとく、完全に音からのみストーリー構築されている訳ではないが、前半部と比べれば、音

6) Gregory, Richard Langton: *Eye and Brain: The Psychology of Seeing*, 1st ed. 1966, 5th ed. Princeton, New Jersey (Princeton University Press) 1997.

7) 詳細は、拙論：認識論的自我の自発性—ニューラルネットワークのバイオニクス的存在としてのカント、カント研究会・植村恒一郎・朝広謙次郎編『自我の探究』（現代カント研究8）、（晃洋書房、京都）2001年、37-64ページ、を参照されたい。

8) Churchland, Patricia Smith: *Neurophilosophy: Toward a Unified Science of the Mind-Brain*, Cambridge, Massachusetts (The MIT Press) 1989, p.46.

9) 本稿に記される番号は、特に断りのない限り『好きだ、』のカット番号である。このカット番号は、論考の最後に添付する『好きだ、』のカット割り表におけるカット番号と対応している。又、本稿では、時間をx.y.zの形で表記する。xは時間を、yは分を、zは秒を表す。1.12.15となっている場合、それは、映画の始まりから1時間12分15秒が経過した時間を意味する。

だけを頼りに、ある程度ストーリーを把握可能である。しかも後半部では、前半部の流し撮りや多重露出が用いられた箇所のように、映像表現を駆使して映画のストーリーが構築され示される箇所は少ない。後半部の、ユウが電車に乗って去っていき、ヨースケがプラットホームに残される「別れ」のシーンでは、グレースケールによる表現などの多彩な映像表現が効果的に用いられてはいるが、「別れ」のストーリーそのものは、音に頼るだけでも、それなりに捉えることが出来る。それどころか、後半部では、ユウが駅のそばでヨースケを待ち続けていることを表現するべく用いられる東京の山の手線のホームの音と思われる発車ベルなど、ストーリーに不可欠な要素が、駅の映像なしに音のみで与えられたりもしている。

以下に、『好きだ、』のあらすじを示す。<sup>10)</sup>

#### 前半部

高校生のユウとヨースケは、両思いの関係にあるが、互いに自分の気持ちを素直に表そうとはしない。ユウは河岸でヨースケがギターを弾いて曲を作っていると、近くに来て座りその旋律を口ずさむが、ヨースケは、ユウが自分の曲を口ずさむと、ギターを片付け去ってしまう。しかしその一方で、髪のを整えながら、学校の帰り道のユウを待っていたりもする。

ユウの姉は、半年前に思い人を事故で亡くしていた。ユウが語るところによれば、そのとき以来、彼女は「なぜか前より少し笑うように」になっていた。ユウが家の中でヨースケの曲の旋律を口ずさむのを聴かされていた彼女は、いつのまにか自分でヨースケの曲の旋律を歌うようになり、亡くなった恋人に川辺で聴かせたりする。

ある夜、ヨースケが成人雑誌を買うのを目撃してしまったユウは、ヨースケに対して距離を取るようになり、又姉を気遣う気持ちから、姉とヨースケを会わせようとする。ヨースケがユウに、ユウの姉の

ことを何か伝えようとして、久しぶりに河岸で会った二人は、そこでキスをする。しかしユウは、姉への気遣いから、「ヨースケと会ったころのお姉ちゃん、鼻歌とか歌ってたり、なんか…」、「お姉ちゃんと会ってあげてよ」と、ヨースケに言って、再び、ヨースケと姉を会わせようとする。

ヨースケに会うため、水門のところへ向かっていた姉は、途中、亡くなった恋人といつも自分が会話していた川辺に、人の姿を認めてよそ見をしているうちに事故に遭う。その後、病院に姉を見舞った二人は、帰り道で会話する。ユウは、「あの曲さ、随分先まで出来たんだね」、「姉ちゃんが台所で歌ってた」とヨースケに言う。そして、いつか全部曲が出来たら聴かせてほしいと頼み、そのことを約束して二人は別れる。

#### 後半部

17年後。ユウの姉の事故以来、ユウとヨースケは会っていない。ヨースケは、作曲家でもギタリストでもなく、レコード業界に職を得てレコード会社の営業マンをしながら暮らしていた。ある日、ユウがギターの録音のため、レコーディングスタジオに現れる。しかし、何年も会っていないため、ヨースケにはそれがユウだと分からない。レコーディングブースに入ろうとする彼女に、ヨースケは「すみません、レコーディング中なんで」と言い、彼女は、「あっ、すみません。有り難うございます」と言い、二人は会話するが、依然としてその人が誰か、ヨースケは気付かない。やがてブースが空き、彼女は、ブースに入って録音する。ヨースケは、コントロールルームで彼女のギターを聴いている。ヨースケに気付いたユウは、自分の録音が終わった後、ヨースケのギターの曲を弾き、自分が誰かヨースケに教える。ユウは、音楽製作会社の事務をしており、会社で「しろうとっぽいギターの音がほしい」と言われて、偶然ヨースケがいたスタジオに来たのであった。

再会した二人は、失われた17年を取り返すかの

10) 但し、あらすじは映画の表面的な展開を示すに過ぎない。この映画が描き出す本質的なテーマ（これこそこの映画の真のストーリーなのだが）は本稿の詳細な分析を通して明らかにされる筈である。

ように、飲み屋で飲み、その後ヨースケのアパートで、語り明かす。ヨースケは、ユウに指が痛いかどうか尋ねる。ユウが痛いと言えると、「ずっと弾いていると痛くなるんだよな」「俺ももう痛いだろうな」と述べ、ギターを弾くことから離れてしまったようなことをユウに言う。その一方で、ヨースケは、17年前に交わした約束のことを切り出そうとしたりもするが、ヨースケがギターを弾くことをやめてしまったと思い込んでしまったユウは、その約束のことについてあまり話さず、そのまま話題をそらそうと、「最初のところは結構すぐ思い出せたんだけど」「その後がね」「続かなかったわ」と数時間前に自ら弾いたヨースケのギターの旋律について語り、ヨースケは「もう忘れたな」と言う。ユウも「忘れたかあ」と応じる。ヨースケは、本当はギターが弾けるのでそれは事実ではなく、前半部と同様、ここでも二人の心は又もやすれ違ふ。やがて二人は、ユウの姉について会話して、ユウが泣き始め、ヨースケも自分の気持ちを押しさえられず抱擁し合う。それから、二人は17年間眠ったままのユウの姉を見舞う。別れ際、プラットホームからユウの乗った電車が発車するとき、ヨースケはユウに、勤めている会社の名前を問うが、ユウの答えは電車の音にかき消されてしまう。それでも、自分の思いを押しさえられなくなったヨースケは17年前の約束を果たそうとユウの会社を調べ彼女に電話し、約束を果たすべく会う約束をする。しかしながらヨースケは会いに行く途中、路上で刺されてしまう。再び気付いたときには、彼は、病院の寝台に横たわっているが、そ

の傍らにはユウがいるのだった。横たわるヨースケに対して、ユウは初めて「好きだ」と言う。ヨースケも「俺も、好きだ」と答える。ヨースケの完成したギターの曲が流れ、二人が並んで歩くシーンと共に映画は終わる。

この映画の表現を特徴付ける最たるものは、関係性にある。映像表現は関係として表現されている。前半部に多く見出される空のカットは、単に各シーンの初めや終わりを表すものとしてそこに配置されているのではない。

まず、この空のカットを手掛かりとして、関係としての表現とはどのようなものであるのか述べてみたい。空のカットは、各シーンと関係付けられて配置されているが故に特別の意味を持たされ、鑑賞者がそのシーンを連想する際のトリガーとして機能する。例えば、99と122に見られるような、空と渡り廊下のカットは、99が所属するシーンと122が所属するシーンとを関係付ける。そして鑑賞者は、122を見るとき、99を連想し、さらに99が属するシーンそのものをそこに関連付けることができる。このような、空と渡り廊下のカットは、一体、何を表現しようとするのだろうか。

前半部の空のカットは、3種類のパターンに分けることができる。それぞれの基本パターンは、表1の通りである。

これらのカットは、実際には、上記の基本パター

表1

種類		人物	背景など	せりふ	その他
(A)	空のカット。雲の移動。映画のストーリーとの直接の関係を断たれた形で映画の中に配置されている。	なし。	空。雲。	なし。	環境音。
(B)	空のカット。夕暮れ時などの時間の情報を、映像が保持する。	なし。	空・雲以外に、電柱・電線・山など、映画の舞台に見出されるべき背景情報を含む。	なし。	環境音。
(C)	空と渡り廊下のカット。雲の移動。映画のストーリーとの直接の関係を断たれた形で映画の中に配置されている。	なし。	空・雲以外に、手すりのある渡り廊下が描かれる。	なし。	環境音。

ンを中核部分として持ちながら、無音であったり、渡り廊下の手すりだけが描かれたりして、派生させられた形で用いられている。実際に、空のカットがどのように用いられているのかを表2から表4に示す。<sup>11)</sup>

なぜ(C)のカットは、それまでの3, 16, 28,

56, 144, 163に見られるような(A)と違って、渡り廊下を持つのだろうか。

(A)の空のカットは、ユウとヨースケの、距離の「近い」関係と関連付けられて配置されている。最初に出現する(A)のカット3はユウとヨースケが特別の関係にあることを表すシーン1の中に配

表2 [種類 (A)]

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
3<1>	0.01.05	空のカット. 2からクロスフェード. 雲の移動.		空. 雲.		虫の音. ユウの鼻歌. ギターの音.
16<3>	0.03.19	空のカット. 雲の移動.		青空. 雲.		授業の音. (先生の話す) 声.
28<4>	0.04.19	空のカット. 雲の移動.		画面の殆どを雲が覆う. わずかに青空.		無音.
56<6>	0.08.15	空のカット. わずかに移動する雲.		青空. 雲.		川の音. 車の音. 風の音.
144<12>	0.26.49	空のカット. 雲の移動.		一面. 雲.		無音.
163<13>	0.35.05	空のカット (日没). 雲の移動.		空. 雲.		無音. 0.35.08 環境音.
169<13>	0.36.50	空のカット. 雲の移動.		青空. 雲.		風の音. 水の音. 車の音など.

表3 [種類 (B)]

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
13<2>	0.02.46	空のカット. 夕暮れ.		電柱と電線. 雲. 山.		虫の音.
31<4>	0.04.32	空のカット. 曇天の空.		画面の下部に雑草がわずかに見受けられる.		虫の音. 風の音.
46<4>	0.06.30	空のカット. わずかに雲の移動.	(ユウ・ユウの姉).	殆ど雲に覆われた空. 木. 雑草.	ユウの姉「ユウは?」. ユウ「飲む」.	虫の音. 急須のふたの音. 湯を注ぐ音.
71<7>	0.14.09	空のカット.		曇天の空. 画面下部に木の一部.		無音.
90<7>	0.17.34	曇天の空のカット.		雲. 草地.		虫の音. 水の音.
97<7>	0.19.19	空のカット. 下に, 草の一部が小さく写っている. 0.19.21 多重露出によりユウが出現. 95のユウが何かを言った箇所の映像を重ねている. 0.19.29 ユウ, 去る.	(ユウ).	空. 草の一部.	0.19.29 ユウ「変態野郎」.	虫の音. 水の音. 0.19.21 無音となる. 0.19.29 虫の音. 水の音.

11) 表2から表7においてカット番号と共に記される, <>で括られた番号は, そのカットが属するシーンの通し番号である.

表3 [種類 (B)] (続き)

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
109 <9>	0.21.11	空のカット.		青空. 雲. 画面右下に電柱と木の枝が映る.		鳥の鳴き声など. (今までに用いられたことのない新しい音である).
116 <9>	0.22.16	空のカット.		青空. 雲. 画面右下に電柱と木の枝が映る. 109を連想させる.		生徒の声.
171 <14>	0.37.34	空のカット. 雲の移動. 風に揺れる草.		曇り空. 草.		無音.
198 <15>	0.42.07	空のカット. 雲の移動.		青空. 雲. 夕日. 画面下部に山のシルエット.		無音.
209 <15>	0.43.17	鳥と空のカット.		鳥. 青空. 雲. カットの終わりまで, 画面下部に山が一瞬映る.		無音.
343 <21>	1.06.40	空のカット.		夜空. 星又は人工衛星. 画面下部に草の一部.		無音.
381 <22>	1.11.00	空のカット.		夜空. 星又は人工衛星. 画面下部に遠山, 草木など.		無音.
435 <23>	1.21.30	空のカット.		空. 雲. 画面左下に, 少しだけ建物の一部が斜めに写されている.		明らかに, この空のカットにおける建物の構図は, 212における渡り廊下の手すりの構図と関係付けられている. この空のカットは, 姉のことについてヨースケに語るユウの心を表すものだろう.

表4 [種類 (C)]

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
99 <7>	0.19.37	曇り空と渡り廊下のカット. 雲の移動.		曇り空. 渡り廊下. 渡り廊下の手すり.		虫の音. 水の音.
122 <11>	0.23.08.	曇り空と渡り廊下のカット. 雲の移動.		薄い雲と青空. 渡り廊下. 渡り廊下の手すり.		虫の音.
148 <12>	0.28.33	空と渡り廊下のカット.		空. 渡り廊下. 渡り廊下の手すり.		川の音, 車の音など.
151 <12>	0.29.08	空と渡り廊下のカット.		空. 渡り廊下. 渡り廊下の手すり.		川の音, 車の音など.
157 <12>	0.30.58	空と渡り廊下のカット.		青空. 渡り廊下. 渡り廊下の手すり.		車の音, 川の音など.
212 <15>	0.43.43	曇り空と渡り廊下のカット. 雲の移動.		曇り空. 画面左下に斜めになった渡り廊下の手すりが写される.		無音.

置されており、シーン1はこの空のカットを介して、ヨースケに対する特別な気持ちを持つユウの存在を鑑賞者に印象付ける。とくに2の終わりのユウの顔の描写から3へのクロスフェードは、ユウの思いを、3の空のカットと結びつける効果的な役割を果たすであろう。16の空のカットは、ノートにヨースケの顔を落書きするユウ（シーン3）と関係付けられながら、鑑賞者に提示される。28は、シーン4の始まりを成すカットであるが、このシーンにおいて、それはヨースケのギターの旋律（シーン1で示されたもの）を口ずさむユウと結合される。それら空のカットは、いずれも、ユウの、ヨースケに対する思いに関連付けられて、配置されている。

一方で、鑑賞者は、シーン4に至ったとき、それまでに見られた空のカットとは種類の異なる空のカットに気付かされる(46)。実際のところ、その種のカットは、シーン2の13において既に登場済みであるが、その時点では、それは電柱や山を背景に据えつつ自然にシーン2に溶け込んでおり、単にシーン2の舞台を用意するものだと解釈してやり過ぎてしまっているかもしれない。この空のカットが(A)と種類が異なることを鑑賞者は意識させられないかもしれない。そうだととしても、シーン4に至ったとき、鑑賞者は、同じ種類のカットが繰り返されていることを少なくとも意識させられる。そしてそのとき、正直に自分の気持ちを表に出すことの出来ないユウの複雑な内面と関連付けられた13を連想し、そのようなユウを46において再認識するだろう。そしてこのような、ユウの正直になれない複雑な内面と関係付けられる空のカットが、シーン4の46に繰り返されることの意味を考えさせられる。13と46は、それが「純粋な」空のカットではなく、映画の舞台に置かれるべき電柱や山が空と共に一つの画面の中に混ぜられて写されている点で共通している。それらは同時に、ユウのヨースケに対する

複雑な気持ちをも間接的に表現するように思われる。

これに対して、シーン6の始まりの56は、13や46と異なる、差し当たり映画の世界との関係を持たないように見える純粋な空のカットである。このようなカットの繰り返しの、鑑賞者はシーン1を思い起こさせられ、シーン6が、ユウとヨースケの「親しさ」と共に展開させられることを示唆していることに気付かされる。そして実際、シーン6の62までは、シーン1に見出されたようなユウとヨースケの関係が描写される。しかしユウは、そのシーンの最後で、ヨースケが成人雑誌を買うのを目撃してしまう。これを機に、シーン6はそれまでとは全く正反対の方向へと展開する。シーン6では、成人雑誌事件の直前に、転機を示すものとして、63が、混ざりもののある純粋でない空のカット(B)として挿入されている。さらに、シーン7は、それまでのユウとヨースケの関係とは異なる、少し距離のできてしまった関係を描くべく、(B)の空のカット71で始められている。そして、同種のカット90を同じシーンの中で繰り返す、鑑賞する者に提示する。シーン7は、それまでとは異なっていて距離あるユウとヨースケの関係を象徴すべき(C)の、曇り空と渡り廊下のカット99で締めくくられる。こうして(A)(純粋な)空のカットから、(B)混ざりもののある純粋でない空のカットを経て、(C)渡り廊下を持つ空のカットへと移り行くことで、空は二人の近くで遠い複雑な関係を表現する。(A)は、シーン1に見られるような二人の関係やユウの素直な内面を象徴している。(B)は、何かが混入し距離が生じた二人の関係を象徴する。(C)は、一層明確に二人の関係を遠ざけられたものとして表し、そのような二人の関係を象徴する。それは、渡り廊下という第3のものによって介された関係である。映画の実際の舞台では、この第3のもの役割は、ユウの姉が担っている。ユウの姉が事故に遭った直後に



提示される、渡り廊下の手すりしかない (C) において、渡り廊下を失った手すりは、ユウの姉の存在が薄れ行ったことの象徴であり、ユウとヨースケは、そのとき、二人を媒介した存在を喪失するのである (212)。

シーン 8 以降、それまでとは異なった仕方ユウが描かれる。それはユウのヨースケに対する気持ちの変化と呼応させられている。このシーン以降、ヨースケのギターの旋律を口ずさむのはユウではなくて、ユウの姉である。シーン 8 では、ユウは、いつものように家の中に居て姉と会話するが、いつものように自分の部屋に座ったりはしない。108 では、それどころかユウがいないユウの部屋が映し出されたりもする。シーン 9 も同様であり、それまでとは異なる仕方ユウを描写する。その上、シーン 9 は、(B) の空のカットと共に始められるが (109)、そのカットには、鳥の鳴き声などそれまで用いられなかった新しい音が出現する。109 は、ユウの揺れる複雑な気持ちを表す。ユウの心は新しく生じたもの (ヨースケへの距離感) と元々あるもの (ヨースケに対する気持ち) との間を揺れるのであろう。そして鳥の鳴き声は、新しく生じたものの象徴であるのだらう。109 においてなぜ (B) のカットが配置されるのかと言えば、ユウは、(C = 新しいもの) と (B = 元々あるもの) の間を揺れているからである。(B) は (C) よりも (A) に近いものとして、「元々あるもの」との関係を保っている。ユウが家に帰ってきたとき、時計の針は「4 時 44 分」を差している。それは、「5 時」にヨースケが姉と会う少し前である。ユウは、いつもの自分の部屋で、独り、時計の振り子の音を聞いている (115)。シーン 9 は、ユウのヨースケに対する揺れる気持ちを空のカットの揺れとして表現している。そして、シーン 8 や 9 において、ユウは、姉を介して、或いは時計を介して、媒介された関係においてヨースケと関わるのである。渡り廊下を持つ空のカットは、このようなユウ

のヨースケに対する間接的な関係を象徴する。

シーン 10 は再び (B) の空のカットで始められ、シーン 9 の揺れるユウの気持ちへと関係付けられている。ユウはこのシーンでヨースケと会話するが、そのままヨースケを残して去っていく。依然としてユウとヨースケの間に出来た距離は縮まらないままである。そして、その次のシーン 11 は、もう一度、曇り空と渡り廊下のカットで始められ、鑑賞者は、ユウとヨースケの距離のある関係を再認識させられる。このシーンの、独り、夕暮れの道を歩くユウのカット (134-135) は、ユウの寂しく複雑な気持ちを表現する。

これらに対して、シーン 12 は、一転して、(A) のカット 144 で始められる。それは、恐らく、ユウの気持ちの、(B) → (C) → (A) と揺れる様の表現であろう。しかし同時に、この (A) は、二人の関係がこのシーンにおいて再び距離の縮まった近いものとして描かれることを先取りしてもいる。145-147 において、ヨースケは、ユウに、ユウの姉のことを何か伝えようとする。しかし結局思いとどまってしまう。このときヨースケが何を言おうとしたのかは、鑑賞者にも最後まで明らかにされない。ヨースケは、ユウに姉のことを何か言おうとした。そしてそれを思いとどまってしまった。そのような形において、依然として、二人の間には、ユウの姉の存在が横たわる。148 と 151 の空と渡り廊下のカットにおける渡り廊下は、二人の間にそのような形で介在するユウの姉と呼応させられ配置されている。そして二つの (C) のカットに挟まれた 150 の、ユウとヨースケの沈黙は、ヨースケが何かを言おうとし、それを思いとどまったことからもたらされたものとして、(C) に挟まれている。しかし又その一方で、しばらく河岸で会うことのなかった二人は、ヨースケがユウに姉の何かについて言おうとしたことによって、河岸で会ったのである。ユウの姉によって、シーン 7 以来途絶えていた二人の関係が再び接近し、結果と

してシーン 12 は、ユウの姉のいない「二人の世界」の出来事として、描写される。157 の空と渡り廊下のカットは、むしろ二人を繋ぐものとして、それまでになかった「二人の世界」を実現するものとして、ユウとヨースケの関係を媒介するのであり、(C) のバリエーションではあるけれども、それは極めて (A) に近いものとして配置されている。そもそも (C) は、構成からすれば、渡り廊下を持つことによって (A) から遠いところにあるが、それは同時に、二人を繋ぐ可能性を持つものでもある。(C) の基本パターンは、「空」と「雲」と「雲の移動」を伴う。それは、(A) と同じものであり、見方によっては (C) は (B) よりも (A) に近いものである。(C) は、「空」と「雲」と「雲の移動」によって、(B) と決定的に異なっており、しかも直接的には映画の世界から独立させられていて、直前や直後の映像との直接的な関係が希薄である点においても、(B) よりもむしろ (A) に近い。(B) は原則として、電柱・電線・山などの映画の舞台設定に不可欠な要素を伴っており、その限り、(A) や (C) とは異質なものである。そのようにして (C) によって再び近づけられた二人は、シーン 12 においてキスをし、ユウは思わず泣いたのである。

(C) によって再び近づけられた二人の関係を保持し、シーン 12 とシーン 13 を関連付けるために、シーン 13 は (A) のカット 163 で始められる。それにもかかわらず、166 の 0.36.11 において生じた水の音が、(C) によって形成された、シーン 12 のユウとヨースケの「二人の世界」を葬り、ユウの姉の存在は、(A) と (C) の関係を断つようにして、ユウの前に出現する。水の音は、台所における水道の音として鑑賞者に強く印象付けられており、それは、姉の存在を象徴するものである。その上 167 では、物理的には不自然な形であるにもかかわらず、0.36.17 に、ユウの姉がヨースケの曲の旋律を口ずさむ声が挿入される。それはユウが泣いたことへの答えであるのかもしれない。ユウは、

166 において、シーン 12 でなぜ自分は泣いたのだろうかかと、自問する。167 は、音によって、その答えを与えているのかもしれない。183-184 のユウの台詞「ヨースケと会ったところのお姉ちゃん、鼻歌とか歌ってたり、なんか…」「お姉ちゃんと会ってあげてよ」に示されるユウの気持ちが、(A) と (C) の関係を再び断たせるのである。ユウは、姉に対する不憫さなどの気遣い故に、自分の気持ちに蓋をするのであろう。

しかしながら、それにもかかわらず、鳥によって (C) と (A) の関係は保持されることになる。表 5 に鳥が配置されたカットの一覧を示す。

前半部において鳥が登場するのは、209 までの 4 カットである。鳥は、そのうちの最初の 3 カットでは、一見、偶然の出来事として背景や環境音に混入して、そこに居合せただけのように見える。それは、映画のストーリーとは全く無縁なものとしてそこに見出される。しかしその鳥が、209 において明示的に、1 カットが与えられて描写される。このときもはや、鳥は偶然居合せたものとしてではなく、映画の中に深く関わるものとして、配置されている。では、鳥はどのような存在であるのだろうか。少なくとも次の様に述べる事が出来る。それは、ストーリーに直接関与することのできない存在である。ユウによっても、ヨースケによっても、ユウの姉によっても言及されることがなく、彼らのいずれとも直接的な関係を持たないものとして、映画の中に配置されている。そのような鳥が、209 において 1 カット与えられて、映画の中に持ちこまれている。それは、(A) の空のように、そこにある。(A) とはまさに単なる空に過ぎないものであった。そして (A) のように置かれる限り、鳥は (A) と関係付けられ、(A) の何かを表現するものとして、映画に関わっている。

シーン 15 において、ユウの姉は事故に遭う。そして、渡り廊下は手すりを残して失われてしまう。しかし、鳥は依然として飛んでいる。それは

表5 鳥が配置されたカットの一覧

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
109 <9>	0.21.11	空のカット.		青空. 雲. 画面右下に電柱と木の枝が映る.		鳥の鳴き声など. (今までに用いられたことのない新しい音である).
112 <9>	0.21.27	水門脇のヨースケのカット.	ヨースケ.	空. 山の稜線. 草地. 電線柱. 水門の脚柱. 鳥が画面を横切る.		車の音. 虫の音. 鳥のさえずり.
170 <13>	0.36.54	ユウの姉のカット.	ユウの姉 (F)*.	コンクリートの階段 (O)**. 画面左上一部草木 (O).		風の音. 水の音. 車の音. ヨースケの旋律を口ずさむ姉の声. カラスの鳴き声.
209 <15>	0.43.17	鳥と空のカット.		鳥. 青空. 雲. カットの終わりで, 画面下部に山が一瞬映る.		無音.
400 <22>	0.12.42	ヨースケのアパートの窓のカット.	(ユウ).	窓枠. 窓から見えるビルなどの建物. 鳥が2回, 窓を横切る.	1.12.45, ユウ「最初のところは結構***	環境音(車の音など).
415 <22>	1.14.47	ユウのカット.	ユウ.	ヨースケのアパート.	1.14.46, ユウ「笑ってくれるよ」. 1.15.16, ユウ「会いに行くと」. 1.15.29, ユウ「笑ってくれる」.	環境音. 1.15.23, 鳥の鳴き声.
419 <22>	1.15.55	泣くユウとヨースケのカット.	ユウ. ヨースケ.	ヨースケのアパート.	1.16.05, ユウ「笑ってくれてる」.	環境音(車の音がかなり騒がしくなってくる). 1.16.13, (ヨースケが)動く音. 1.16.21, ヨースケ, 泣いているユウを抱きかかえる. ユウの泣き声. 1.16.24, カラスの鳴き声.
420 <22>	1.15.51	抱き合うユウとヨースケ.	ユウ. ヨースケ.	ヨースケのアパート.		環境音(フェードアウトし, 1.17.13で消失). ユウの泣き声. 1.16.53, カラスの鳴き声.

\* (F) は, その対象に焦点が合っていることを示す. 以下全ての表において同様.

\*\* (O) は, その対象に焦点が合っておらず, ぼかされていることを示す. 以下全ての表において同様.

\*\*\* カット 400 のユウのせりふはカット 401 へと切れることなく続いている. せりふの全てを示せば, 次の通りである. 「最初のところは結構すぐ思い出せたんだけど」.

悲しく飛んでいるかもしれないが、失われない。渡り廊下は、(A)に対立するものとして置かれていたのであった。そしてその一方で、ユウとヨースケを繋ぐものでもあった。その渡り廊下は失われてしまった。その繋ぎ役としてのユウの姉の存在は、事故によって失われてしまったように思われる。しかし、そこに鳥が居合わせたのである。鳥は、既述したように、109において、(A)を(B)に移行させるような新しいものとして、(C)に近くて(A)から遠いものとして映画の中に導入されたのであった。それはつまり、肯定的であるにせよ否定的であるにせよ、ユウとヨースケとの関係を取り持つ存在であるユウの姉の何かを象徴するものとして導入されている。そのユウの姉が事故に遭ったとき、鳥は、そのユウの姉を見守りながら飛んだ。ユウの姉は依然としてユウとヨースケを繋ぐものであり続ける。事故の後も鳥は飛び続けるのであり、ユウの姉は、ユウが後半部においてヨースケに語るようにユウに対して「笑いかける」のかもしれない。鳥は、依然としてユウの姉を象徴しており、ユウとヨースケの関係を繋ぐ存在でありつづける。鳥はまさに、(C)のようにある。それは(A)の何かを表すが、同時に(A)とは遠いものとして(C)のようにある。その鳥は、後半部の、ユウとヨースケが再会した日の夜が二人の抱擁と共に明ける時、まさにその夜明けをさえずりと共に告げるのである。

シーン13において、ユウの姉の存在が「二人の世界」を打ち壊すものとして描かれたにもかかわらず、シーン14とシーン15の始まりを担うのは、(A)のバリエーションである。それは、映画のストーリーがいかにか展開するべきかを表し、映画の方向性を定めようとするように思われる。それは、「好きだ、」というタイトルに従って展開されるべく映画を措定しようとする。ユウの姉はいつも自分が座っていた河岸、亡くなった恋人と対話していた河岸に、人の姿を認めてよそ見をしな

がら、事故に遭う。映画は、シーン14やシーン15において、ユウの姉の存在と対決させられ、「好きだ、」ということは、ユウの姉の存在が示す方向と向きを異にし、なおかつ、ユウの姉の存在と共にある、という二重性において規定されざるを得ない。映画『好きだ、』は、このような姉の存在と、そしてその事故と、向き合わせられ、後半部において解決を迫られる。その答えは、シーン15の最後のカット221において交わされたユウとヨースケの、いつか曲が全部出来たらユウに聴かせるという、約束の履行との関連において示される。

後半部では、鳥は、ユウとヨースケが、ユウの姉について会話したとき出現する。なるほど鳥は、夜明けを知らせる印として、背景や環境音の一部として配置されているだけである。しかし、鑑賞者は、前半部の209において、鳥はユウの姉の象徴であると、或いは、失われた渡り廊下の象徴だと、強く印象付けられているが故に、もはや偶然そこにあるに過ぎない背景の一つとして見る事は出来ない。鳥によって、否が応でもそこにユウの姉を連想させられる。

400において鳥が窓の外を横切るとき、ユウとヨースケの会話は二人の思いとは別の方向へ向かって流れている。396から、ヨースケは、221で交わした約束について話そうとした。しかし、ユウは、ヨースケがギターをやめてしまったと思ったために、話題を違うところへ変えてしまう。400から402にかけてのユウの「最初のところは結構すぐ思い出せたんだけど、その後がね、続かなかったわ」という言葉は、ユウとヨースケの互いの思いとは違うところへと二人の会話を転じさせてしまう。そのような時に鳥は飛ぶ。そのとき鳥は、(C)に関わるものとして、(A)から遠いものとして、その場を飛ぶ。しかし又、それは414以降のユウの姉についての二人の会話を先駆けるものでもある。二人は、414において、ユウの姉につ

いて会話し、415で、ユウが姉について「笑ってくれるよ、会いにいくと」と言ったすぐ後に、それに呼応するかのように鳥は再び鳴く。鳥は、(A)から遠いものとして、二人の間に沈黙を惹起する。その後には深い沈黙が待っているのである。やがてユウは泣き出す。しかしながら419でカラスが鳴くとき、二人は抱き合っている。それから422において二人はキスをする。鳥によって惹起された沈黙によって、もはやユウの姉が眠りから覚めないことに対する悲しみがこみ上げ、二人は抱き合うのである。そこには、二人の関係を象徴する二重性があり、鳥はまさにその二重性そのものである。しかも、鳥の鳴き声は、町行く車が増えていき次第に大きく騒がしくなる車の音とともにもたらされる。その車の音は、しかし、ユウの姉を事故に遭わせたような車の音であるかもしれない。その車の音が、420においてカラスの鳴き声と共にフェードアウトし始め、消失させられる。カラスは車を連れ去り、421では、もはや二人の立てる音以外の音がない。ただそこには現在の新しいユウとヨースケだけがいて、鑑賞者の視点はひたすら今の抱き合う二人を見つめることになる。そこには、ただ「二人の世界」が再び広がるのである。そのようにして、前半部でキスをしたシーンと同様にして、二人は、二人が望んで到達しようとはしなかった場所に、ユウの姉の存在を象徴する鳥によって、向かわせられるのである。二人は、その後ユウの姉を見舞う。そうするうち、次第にヨースケは自分の思いを押しえられなくなる。ユウの姉によって惹起された一連の出来事が、約束を果たす事に消極的であったヨースケを翻意させるのである。

この映画は、単なる「ハッピーエンド」の映画ではない。確かに、ユウとヨースケは再会し、約束は履行されるが、この映画はむしろ、本質的なテーマとして、もっと別のものを抱えている。そのテーマとは、二人の男女の間の微妙な感情の綾

など、内面的な関係の変化を描き出すことにある。だから、この映画を単にあらすじだけから概念的に理解してしまうならば、その本質を見誤るであろう。二人の再会の際には、(B)の夜空のカットが用いられる(343及び381)。二人の関係はもはや、失われた17年を取り戻すことが出来ず、それは、ただちに(A)に呼応し得る関係なのではない。

又、この映画では、空のカット以外にも、二人の二重性に支配された関係を巧みに表現する映像表現を持つ。それは、音が消去された映像において、ユウの何かを言おうとする口の動きが示される箇所である。そのような映像は、表6に示す箇所に見られる。

95は、多重露出によって97で再度表現され、この形式の表現の、『好きだ』における重要性を、鑑賞者に強く印象付ける。それは同時に、単に鑑賞者への印象付けということだけではなく、ユウの口の動きによるこのような表現を、ヨースケに対する距離を表すものとして措定する。95→329→458→512と進むことにより、この形式においてユウの言おうとするものは、「変態野郎」から「好きだ」へと決定的な変化を遂げる。それは、この映画のストーリーと対応付けられている。しかし、95において措定され含蓄された内容は、鑑賞者の印象に最後まで残存する。512は329や458を介して、95において措定されたものが薄められているかもしれないが、依然として95の何かであり、95と同様の形式によって「好きだ」は表現されるのである。そのような、ユウの複雑な内面を表現しようとする二重性が、二人の間の微妙な感情の綾など、内面的な関係の変化を、掘り起こし炙り出すのである。

表 6

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
95 <7>	0.18.57	ユウのカット。ユウの口の動きによって、ユウがヨースケに向かって何かを言ったことが分かる。このカットは無音であるので何を言っているのかは分からない。	ユウ。	空。	不明。	無音。
329 <20>	1.04.13	レコーディングブースのユウのカット。	ユウ。(ヨースケ)。	レコーディングブース。レコーディングブースとコントロールルームを隔てるガラスの枠がぼかされて画面中央を斜めに走っている。	1.04.17, ユウはコントロールルームのヨースケに向かって何かを言うが、ヨースケにはそれが何であるか分からない。	ヨースケの曲の旋律をユウが弾く, ギターの音 (1.04.15, 終わる)。1.04.29, 人の声。
458 <25>	1.25.50	電車の中のユウのカット。このカットでは、カラー情報が幾分残されているが、情報のかなりの部分は破棄されていて、極めてグレースケールに近い表現である。色の捨象は、ユウを喪失する「別れ」の表現である。	ユウ。(ヨースケ)。	電車。	1.25.52, ヨースケ「ユウの会社、なんて言うの?」。1.26.04, ユウ、答える。口の動きのみが示される。同時に電車のドアが閉まり始める。1.26.06, ヨースケ「なに?」。	環境音。1.25.59, 電車の発車ベルの音。1.26.12, 電車が発車する。
512 <27>	1.39.38	寝台横のユウのカット。	ユウ。(ヨースケ)。	寝台のシート。白のカーテン。	1.39.42, ユウ「好きだ」。1.39.50, ヨースケ「ごめん」。1.39.53, ヨースケ「ぼおっとしてて見逃した」。1.40.03, ユウ、口の動きだけで、「好きだ」を示し、ヨースケに伝えようとする。1.40.18, ヨースケ「俺も」。1.40.22, ヨースケ「好きだ」。	

### 3. 関係性の認識

本節では、前節に示した『好きだ、』の分析と解釈を元に、関係性の認識とはどのようなことかを考えてみたい。

それは、単に、積み木を積むようにして構築された対象に対して成立する認識なのだろうか。つまり、空、雲、ユウの顔、のように部分がパーツとして並べられ、又積まれていくうちに、何かが形成され、認識者はそのような関係を、関係性の認識という形で認識する、という類のものだろうか。それは、積み木によって家を作るとき、完成された家が、それぞれの積み木の関係として認識されているということと同種の事なのだろうか。

今一度、419-420のカットについて、考えてみたい。それは表7の通りであった。

419を成り立たせているものは、(a)ユウ、(b)ヨースケ、(c)車の音などの環境音、(d)ユウの言葉「笑ってくれてる」、(e)ヨースケの動く音、(f)カラスの鳴き声、(g)ヨースケがユウを抱きかかえる行為、(h)ユウの泣き声、である。これらをただ並べれば、鑑賞者は、必ず、419が構成する表現を認識できるのだろうか。それは、単なる(a)－(h)の並存

関係でしかないのだろうか。或いは、8つの素材を並べただけのものとは違う別のものなのだろうか。そうであるならどこが異なるのか。以下に、ミンスキーの議論と比較する形で論じたい。

ミンスキーは、ブロックで塔を作るべく遊んでいる子供を「心のエージェント」(mental agent)の関係として扱っている<sup>12)</sup>。ミンスキーによれば、「塔を作る」は、BUILDERとBEGINとADDとENDと名付けられた4つのエージェントによって成立する行為である。「塔を作る」ことは、作り手(BUILDER)と、行為を始めること(BEGIN)、ブロックを加えること(ADD)、行為を終えること(END)から成る。ヨースケの「抱く」行為もそれ自体は同様にいくつかの部分に分けることが出来るだろう。例えば、EMBRACER, BEGIN, HOLD, END等々。上述の419がもたらす認識も、同じようにしていくつかの部分が寄せ集められ並べられることによって成立している対象の認識なのだろうか。ヨースケの「抱く」は、ミンスキーの論と同種のエージェントの働きとして記述可能であって、鑑賞者は、そのようなヨースケの中にあるエージェントを見ているに過ぎないのか。

確かに、『好きだ、』の映像表現は、関係性によっ

表7

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
419 <22>	1.15.55	泣くユウとヨースケのカット。	ユウ、ヨースケ。	ヨースケのアパート。	1.16.05, ユウ「笑ってくれてる」。	環境音(車の音がかなり騒がしくなってくる)。1.16.13, (ヨースケが)動く音。1.16.21, ヨースケ, 泣いているユウを抱きかかえる。ユウの泣き声。1.16.24, カラスの鳴き声。
420 <22>	1.15.51	抱き合うユウとヨースケ。	ユウ、ヨースケ。	ヨースケのアパート。		環境音(フェードアウトし、1.17.13で消失)。ユウの泣き声。1.16.53, カラスの鳴き声。

12) Minsky, Marvin: *The Society of Mind*, New York (Simon & Schuster) 1988.

て支えられている。『好きだ、』において、カラスの鳴き声がユウの姉と関係付けられているが故に、それは効果的な表現なのであった。そして、カラスそのものが全くユウの姉とは無関係なものであるにもかかわらず、同じ『好きだ、』の209の同一空間内に、鳥と空が同時に配置され、その209がユウの姉の事故直後に置かれ並べられたことによって、そこに構築される関係性は成立しているだろう。では、「ヨースケがユウを抱く」とき、それがカラスの鳴き声とどう関わるかは、単にそれらが並べられ関係付けられたことに基づいているに過ぎないのか。ヨースケの「抱く」がカラスなどヨースケやヨースケの行為とは別のものに関連付けられ規定されているのに対して、ミンスキーの心のエージェントについての考え方はそうではないからという理由だけで、上述の関係性がミンスキー的なものでないと主張したことにはならない。ミンスキーのエージェントもその対象が様々なそれ自体とは別のものに関係付けられていけば、『好きだ、』の中に置かれる資格を持つものかもしれない。

恐らくミンスキーが考えているものは、それだけで一つの関数として成立し得るようなものである。例えば先程のブロックで塔を作る例で言えば、BUILDERはBEGINとADDとENDに関わる一つの関数として考えられている。それは、BUILDERを $f_{BU}(x_a, x_b, x_c)$ とし、BEGINを $f_{BE}(x_0, \dots, x_i)$ 、ADDを $f_A(x_0, \dots, x_i)$ 、ENDを $f_E(x_0, \dots, x_i)$ とすれば、 $f_{BU}(f_{BE}(x_0, \dots, x_i), f_A(x_0, \dots, x_i), f_E(x_0, \dots, x_i))$ として考えられるものである。では、『好きだ、』はどうなのか。形式的な側面だけを見る限り、ヨースケの「抱く」は上記の関数が表現する枠組みの中で同様の関係として捉えられ得る。そして、両者が同種のものに解消可能なのだとしたら、『好きだ、』を「鑑賞する」人工知能のプログラムを作成可能かもしれない。果たして本当にそのような人工知能プログラム「鑑賞する」は成立し得るだろうか。

プログラムされるならば、プログラムされたものは極めてデジタル的な性格を持つことになる。無論、アナログ的な動作を擬似的なものとしてプログラムすることは可能であろう。しかし、それは本質的には、アナログ的ではない。デジタル的処理である限り、情報処理が最終状態へと遷移することによって初めて意味を持つ。その事のためにだけ、その処理は用意されていると言ってもよい。例えば、計算機の実行するプログラムが、バグによってループを抜けられないとしたら、それはプログラマーの「失敗」に起因していて、それは「出来の悪い」プログラムである。これに対し、アナログ的であるとは類比的であることを意味するので、その処理の結果は、何か想定外のものを生むかもしれない。デジタル的な処理は必ず規定されたことの繰り返しである筈だが、アナログ的な処理は、これに反して、サンプリングされた信号を処理するデジタル的な信号処理のように単純なものではない。両者の処理の違いに関して、例えば、ニューラルネットワークにおけるステップ関数とシグモイド関数の違いを思い起こせばよい。前者は、2値表現に基づくデジタル的な処理である。後者は0と1との間の無限の帰結を産出し得るので、その無限の可能性の全てに対処し得るようなプログラムを組むことは容易ではない。

ヨースケの「抱く」は、『好きだ、』の中で、「抱く」単なる行為とは全く別のものに支えられているように思われる。それは元来、直接には無関係なものである筈の空やカラスなどに支えられている。「抱く」行為においてヨースケはユウの悲しみを抱くのもかもしれないが、空が悲しい訳でもカラスが悲しい訳でもない。しかしそれでも、カラスはユウの姉の存在を連想させるような悲しいものとしてそこにある。鑑賞者はこのような空やカラスに対して無限の可能性を以って接する。鑑賞者がかつてカラスの大群の中を通りぬけねばならない体験をしていて、その時のカラスに対する印象が



忘れられないのだとすれば、その印象と共に『好きだ、』を鑑賞してしまうかもしれない。同じ映像表現に対してであったとしても、同じような経験を持たない鑑賞者とは結果的に異なった表現理解を有することが十分に考えられ得る。確かに、「抱く」が表現する関係は、例えば空とユウの関係として、映画によって既に規定されている。しかし、それは映画だけで完結したものであって、鑑賞者に委ねられた部分が全くないという訳ではない。むしろ関係は、対象そのものの側にあるのではなくて、認識者によって持ち込まれるのである。だから、対象をどんなに映像表現が規定しても、その規定の外にあるものを持ち込むという仕方では、鑑賞者は依然として鑑賞する。「抱く」は「抱く」とは無関係なあらゆるものに関わり得るものとしてそこにある。だからこそ鳥は、沈黙を惹起し、沈黙は悲しく、悲しさがユウとヨースケを繋ぐという表現が成立し得る。それはそうでないものとしてそこにある。つまり、『好きだ、』では、或る事とそれとは全く反対の事が、通じ合うかもしれないような映像表現を、本質として持っていると言える。

それはまさに、「並べる」ということによって可能になる表現である。しかも、異質なものの、異種のもものが並べられ、関係付けられるが故に可能な表現である。それは又その一方で、規定や関係付けについての最終的な判断を鑑賞者に委ねてしまう表現でもある。

これに対して、ミンスキーのエージェントに

関する議論は、その規定や関係付けそのものを、完全にそれだけで完結したものとして、規定しようとする。この点で、ヨースケの「抱く」とは完全に異なっている。もちろん、『好きだ、』において、ミンスキーの考える関係付けが全く見出されないのではなく、むしろ、『好きだ、』のストーリー構築のためには、それは必要である。そうでなければ鑑賞者は、『好きだ、』を一つのストーリーとして理解できない。だからその点では、『好きだ、』はやはり論理的な関係性において、ミンスキーの論に通じるものがあるだろう。しかしながら、ミンスキーに従えば、認識は或る一つの結果を追究しなければならない。それは必ず一つである。AであってなおかつAでない、という認識の可能性はない。この点において、両者は、決定的に袂を分かつのである。<sup>13)</sup>

#### 4. 終わりに

関係性の認識とは、単なるAとBの並存関係の認識ではなくて、Aの中にBの何かが見出される。しかもそれは以下に述べるような形においてである。

前述の良寛の「安幾裳やゝ…」に関してそこに「秋萩帖」が見出されるなら、それは両者の関係性がそこに認識されている。しかし又、そこには良寛が学んだ懷素の書風は見られない。現存する良寛の「秋萩帖」の臨書に見出される良寛らしさは、懷素的なものに基づいているかもしれないが、「安幾裳やゝ…」からそれを窺い知ることは出来

13) ミンスキーの論では、エージェントに対して重み (weight) が与えられ、その重みが増減されることによって認識が変化する。認識エージェント (recognizer-agent) が「心」の特性の一つとして考えられている。彼によれば、認識エージェントは、背もたれに対して正の値の負荷がかけられている (すなわち背もたれがある) ならば背もたれのある椅子 (chair) を認識する。背もたれに対して負の値の負荷がかけられている (背もたれがない) ならば、認識エージェントは背もたれのある椅子を拒絶し、ベンチ (bench) や腰掛け (stool) やテーブル (table) を認識する (Minsky, op. cit., p.203)。ミンスキーの論では、椅子が椅子であり、なおかつ椅子でないというような二重性が成り立つ余地はない。ミンスキーの認識エージェントは又、入力、感覚世界 (sensory world) から与えられるのではなくて、エージェント内部の記憶からもたらされる (ibid., p.204)。りんごの、3つの属性 (例えば属性の担い手 (substance)、味、薄い皮の構造) が思い浮かべられるだけで、実際にりんごが見られなくとも、認識エージェントは活性化させられて、エージェントによってりんごが表象される (ibid., p.205)。それは人間の脳の構造を参考に構築された理論であろうが、しかしその一方で依然として、『好きだ、』において示されるような、「AかつAでない」を扱えない限り、上述したように BUILDER を  $f_{BU}(f_{BE}(x_0, \dots, x_i), f_A(x_0, \dots, x_i), f_E(x_0, \dots, x_i))$  として取り扱うに過ぎず、デジタル的処理に基づいて可能な人工知能の理論でしかない。

ない。だから、良寛の懐素との関わり合いを知る者は、「安幾裳やゝ…」を懐素から遠いものとして認識する。それは「懐素的でないもの」として、懐素と関係付けられている。

『好きだ、』の関係性の認識とは、上述のような「そうではないこと」を認識の中核部分として持つ。419における車の音やカラスの鳴き声は、ヨースケとユウの間に立ちはだかるユウの姉を通して、

「好きだ」を表現しようとしなない二人を関係付ける。要するに、「好きだ」を表現しない二人の関係故に、二人は関係付けられ、「好きだ」という二人の思いは実現されるのだ。このような関係性において、先程比較検討したミンスキーの心のモデルに基づく認識の有り方とは決定的に異なる人間の認識の豊かさが見出されるのではないだろうか。

### 映像の構成（カット割り）

（カット割り表は、前半部のみ示す。後半部は省略する。）

#### 前半部

##### シーン1 (1-12)

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
1	0.00.15	ブランク画面.			ユウ「ヨースケ、覚えてる？わたしは覚えてるよ」.	
2	0.00.41	ユウの顔と空のカット. 3ヘクロスフェード.	ユウ.	空.		鼻歌. 野原を踏む足音. 途中より虫の音.
3	0.01.05	空のカット. 2からクロスフェード. 雲の移動.		空. 雲.		虫の音. ユウの鼻歌. ギターの音.
4	0.01.19	歩くユウのカット. 制服姿のユウが歩く. ゆっくり歩いてやがて足を止め, こちら側を向く.	ユウ.	画面の上4分の3は空, 下4分の1は, 小高い草地.		虫の音. ギターの音.
5	0.01.39	河岸に座して同じ所ばかり弾くヨースケのカット.	ヨースケ.	コンクリートの河岸. 橋と橋の脚柱が見受けられる.		虫の音. ギターの音.
6	0.01.44	草むらのカット.				虫の音. ギターの音.
7	0.01.47	ギターの同じ旋律を試行錯誤しながら弾く, ヨースケ. 画面右上に座するユウの姿.	ヨースケ. ユウ.	橋と橋脚.		虫の音. ギターの音.
8	0.02.01	座ってヨースケのギターを聴くユウ.	ユウ.	橋の一部と橋脚. 上3分の2が空, 下3分の1が草地の背景.		虫の音. ギターの音. 0.02.05 ヨースケのギターの旋律を共に歌うユウの声. 車の音.
9	0.02.08	ギターを弾くヨースケ. ヨースケは, ユウと共に歌うのに気付いてユウの方を振り返る.	ヨースケ.	コンクリートの河岸など.		虫の音. ユウの歌声. ギターの音. 車の音.
10	0.02.12	座ってヨースケのギターを聴くユウ.	ユウ.	橋と橋脚と空と草地.		虫の音. (ヨースケがギターを片付け始める) 音.
11	0.02.17	ギターを片付けるヨースケ. 画面構成は7と同様.	ヨースケ. ユウ.	青空. 橋. 小高い草地. 河岸のコンクリート		虫の音.

12	0.02.23	歩くユウとヨースケ。ヨースケ、歩速を早めて、やがてユウを抜き去る。		空。草地(一部,コンクリート)。		二人が道を踏む音。虫の音。水の音とおぼしきもの。
----	---------	-----------------------------------	--	------------------	--	--------------------------

## シーン2 (13-15)

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
13	0.02.46	空のカット。夕暮れ。		電柱と電線。雲。山。		虫の音。
14	0.02.49	道を画面の手前へ向かって歩くユウ。	ユウ。	木、電柱、塀、道など。		虫の音。ユウが道を歩く音。
15	0.02.54	道端の車のバックミラーを見ながら髪の毛をセットするヨースケ。ユウが通りかかる。ユウはそのまま通りすぎようとするが、ヨースケがユウの後ろを追って歩き始める。	ヨースケ。 ユウ。	建物。車。道など。	ユウ「何、色気づいてんだよ、元野球部」。	ヨースケの立てる音。ユウの歩く音。

## シーン3 (16-27)

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
16	0.03.19	空のカット。雲の移動。		青空。雲。		授業の音。(先生の話す)声。
17	0.03.23	シャーペンを動かすユウ。	ユウ。	(教室の)生徒。窓。		(先生の話す)声。
18	0.03.27	(ユウの)落書き。	(ユウの)手。	ノート、シャーペン。落書き。		(先生の話す)声。
19	0.03.32	シャーペンを動かすユウ。	ユウ。	(教室の)生徒。窓。シャーペン。		(先生の話す)声。シャーペンがノートに擦れる音。
20	0.03.36	授業に集中しているヨースケのカット。	ヨースケ。	(教室の)生徒。壁。		(先生の話す)声。シャーペンがノートに擦れる音。
21	0.03.39	(ユウの)落書き。次第に、それはヨースケであることが分かる。カットの終わりで、シャーペンを動かす手が止まる。	(ユウの)手。	ノート。シャーペン。ヨースケの落書き。		(先生の話す)声。話の内容から、古文の授業であるという察しがつく。シャーペンがノートに擦れる音。
22	0.03.45	ユウのカット。ユウ、右前方に一瞥をくれる。	ユウ。	(教室の)生徒。窓。シャーペン。		(先生の話す)声。
23	0.03.48	ヨースケのカット。	ヨースケ。	(教室の)生徒。		(先生の話す)声。
24	0.03.51	ユウのカット。0.04.09ユウ、腕を動かす。消しゴムでヨースケの顔を消していると思われる。	ユウ。	窓。		(先生の話す)声。板書の音。消しゴムがノートに擦れる音。
25	0.04.11	消しゴムでヨースケの顔を消すユウの手。	(ユウの)手。	窓。消しゴム。		(先生の話す)声。手がノートに当たる音。
26	0.04.14	ヨースケのカット。	ヨースケ。	(教室の)生徒。		(先生の話す)声。
27	0.04.16	ユウのカット。	ユウ。	(教室の)生徒。窓。		(先生の話す)声。このカットで途切れる。

## シーン4 (28-46)

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
28	0.04.19	空のカット. 雲の移動.		画面の殆どを雲が覆う. わずかに青空.		無音.
29	0.04.24	川辺の, ユウの姉のカット.	ユウの姉 (F).	川と草木 (O).		水の音. 車の音.
30	0.04.28	河岸のコンクリートに座るユウの姉のカット.	ユウの姉.	木. 川. 道. 草地.		水の音. 車の音.
31	0.04.32	空のカット. 曇天の空.		画面の下部に雑草がわずかに見受けられる.		虫の音. 風の音.
32	0.04.35	台所の, ユウの姉のカット.	ユウの姉. (ユウ).	台所.		(ヨースケのギターの) 旋律を口ずさむユウの声. 但し, 恐らく鑑賞者は, 33のユウの姉のせりふを通して, その声と旋律を口ずさむ声異なるので, 初めて, それはユウの姉の声でないことに気付くであろう. 32におけるユウの存在は極めて軽く, 殆ど隠されてしまっている.
33	0.04.40	逆光の中に座るユウのカット. 縦に3分割された画面構成. 中央の逆光の中にユウが配置される. この3分割のカットは, 以後ユウを特徴付けるものとして使われる.	ユウ. (ユウの姉).	室内.	ユウの姉「なんの曲？」.	旋律を口ずさむユウの声. 虫の音.
34	0.04.49	台所の, ユウの姉のカット	ユウの姉. (ユウ).	台所.	ユウ「ヨースケがギターで弾いてる曲. おんなじとこぼっかしか, 弾かないから, 覚えてたくもないのに覚えちゃって」.	水道から水が出る音. 食器を洗う音.
35	0.05.03	3分割の画面のユウのカット.	ユウ. (ユウの姉).	戸など. 室内.	ユウの姉「ヨースケ君の曲？」. ユウ「ううん, 違うと思う」.	水道の音. 虫の音.
36	0.05.08	台所の, ユウの姉のカット.	ユウの姉. (ユウ).	台所.	ユウのせりふ. 略.	水道の音. 虫の音.
37	0.05.21	3分割の画面のユウのカット.	ユウ. (ユウの姉).	戸など. 室内.	ユウの姉「もっと歌って」. ユウ「やだよ」.	水道の音.
38	0.05.26	台所の, ユウの姉のカット.	ユウの姉. (ユウ).	台所.		水道の音.
39	0.05.30	3分割の画面のユウのカット.	ユウ.	戸など. 室内.		水道の音. 食器を洗う音.

40	0.05.34	台所の、ユウの姉のカット。このカットにおいて、ユウの語りによって初めて、鑑賞者は、台所に立つ人がユウの姉だと分かる。	ユウの姉。(ユウ)。	台所。	ユウの語り「姉は半年前に大切な人を事故で亡くしていた。ずっと思い続けてた人」。	水道の音。
41	0.05.49	3分割の画面のユウのカット。語りが終わると、ユウは移動し始める。	ユウ。	室内。	ユウの語り「それから姉はなぜか前より少し笑うようになった」。	水道の音。食器を洗う音。ドアの音らしきもの。
42	0.06.02	台所の、ユウの姉のカット。	ユウの姉。	台所。		食器を洗う音。水道の音。
43	0.06.06	移動するユウのカット。	ユウ。(ユウの姉)。	室内。	ユウ「おなかすいた」。ユウの姉「うん、ちょっと待って」。	水道、止まる。ドアの音。
44	0.06.11	台所を出るユウの姉。	ユウの姉。(ユウの母)。	室内。	(ユウの母)「ただ」(45へ継続)。	ドアの音。
45	0.06.13	ユウの前を通り過ぎて奥へ入るユウの母のカット。	ユウ。ユウの姉。ユウの母。	室内。	ユウの母「(ただ)いま」(44より)。ユウ「おかえり」。ユウの姉「おかえり」。ユウの母「お、ただいま」。ユウの姉「おかえりなさい」。ユウの母、ユウの前を通り過ぎる。ユウの姉「お母さん、お茶飲む?」。ユウの母「頂きたい」。	ドアの音。
46	0.06.30	空のカット。わずかに雲の移動。	(ユウ・ユウの姉)。	殆ど雲に覆われた空。木。雑草。	ユウの姉「ユウは?」。ユウ「飲む」。	虫の音。急須のふたの音。湯を注ぐ音。

## シーン5 (47-55)

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
47	0.06.41	傘を差すユウと空のカット	ユウ。	空。電線柱と電線。草地。		虫の音。ユウの歩く音。
48	0.06.50	水門のヨースケ。	ヨースケ。	青い水門。コンクリートの柱。草木。		虫の音他。
49	0.06.54	傘を差すユウ。	ユウ。	一面、雨の空。		虫の音他。
50	0.06.59	水門のユウとヨースケ。	ユウ。ヨースケ。	水門。川。		虫の音。川の音。
51	0.07.07	川のカット。		川。草木。		川の音。虫の音。
52	0.07.11	水門のユウとヨースケ。	ユウ。ヨースケ。	水門。川。	ユウの姉を心配し気遣うユウとヨースケの会話。ユウの語り。	川の音。虫の音。

53	0.07.35	並んで歩く、ユウとヨースケのカット。	ユウ、ヨースケ。	曇天の空、電線柱、草地、橋。		虫の音。
54	0.08.02	台所の、ユウの姉のカット。	ユウの姉。(ユウ)。	台所。		ヨースケのギターの旋律を口ずさむユウの声、食器を洗う音。
55	0.08.07	3分割の画面のユウのカット。	ユウ。	室内。		ヨースケのギターの旋律を口ずさむユウの声、かすかに、食器を洗う音。

## シーン6 (56-70)

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
56	0.08.15	空のカット、わずかに移動する雲。		青空、雲。		川の音、車の音、風の音。
57	0.08.18	川辺の、ユウの姉のカット。	ユウの姉(F)。	川(O)、草木(O)。		ユウの姉の、ヨースケのギターの旋律を口ずさむ声、川の音、車の音、風の音。
58	0.08.28	ギターを弾くヨースケ。0.08.46 ユウが来て隣に座る。	ヨースケ。0.08.46 ユウ。	空、草地、コンクリートの地面。	0.09.39 ユウ「おんなじとこばっかだね」。	風の音。
59	0.09.52	河岸のコンクリートに座るユウの姉のカット、ヨースケのギターを口ずさむ。	ユウの姉。	川、草木、コンクリート。		ユウの姉の、ヨースケのギターを口ずさむ声、川の音、風の音。
60	0.10.22	歩くユウとヨースケ。	ユウ、ヨースケ。	夕暮れの空、うろこ雲、草地。		虫の音、風の音、ユウとヨースケの歩く音。
61	0.10.44	歩くユウとヨースケ。	ユウ、ヨースケ。	空、草地。	ユウの姉を気遣うユウとヨースケの会話。	虫の音、風の音、ユウとヨースケの歩く音。
62	0.11.02	歩くユウとヨースケ。このカットでは、二人の姿は、殆どシルエットになっている。カットの終わりで、ユウは笑いながら走り出す。	ユウ、ヨースケ。	うろこ雲の空、草地。	ユウの姉が高校生の時の制服に関する、ユウとヨースケの会話。	虫の音、風の音、ユウとヨースケの歩く音、カットの終わり、ユウの笑い声。
63	0.12.22	空と草地のカット、日没。	(ユウ)。	空、草地。		虫の音、0.12.24 ユウの息遣いの音。
64	0.12.25	早足のユウのシルエット、カットの終わりで立ち止まる。	ユウ。	夕闇。		虫の音、息遣い、足音など、ユウの音。
65	0.12.36	蛇行する夜の道。	(ユウ)。	夜道。		虫の音、息遣いなど、ユウの音、0.12.39 ユウとは別の、走ってくる足音。
66	0.12.42	走ってくるヨースケ。通り過ぎかけて、戻ってくる。	ヨースケ。	夜。		虫の音、走ってくる足音。
67	0.13.00	ユウのシルエット。	ユウ。	夜。		ユウの息遣いの音。
68	0.13.04	自販機で何かを買い、走り去るヨースケ。	ヨースケ。	夜。		ヨースケの足音、自販機の音など。
69	0.13.49	成人雑誌を販売する自販機のカット。		夜。		無音。

70	0.13.57	ユウのカット.	ユウ.	夜.		虫の音. 立ち去るユウの足音.
----	---------	---------	-----	----	--	-----------------

## シーン7 (71-99)

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
71	0.14.09	空のカット.		曇天の空. 画面下部に木の 一部.		無音.
72	0.14.14	学校の廊下.		廊下. 廊下を歩く生徒.		生徒の歩く音.
73	0.14.32	廊下を歩くユウのカット. カメラが斜めに傾けて セットされている.	ユウ.	廊下. 廊下を歩く生徒.		生徒の歩く音.
74	0.14.41	教室のヨースケ.	ヨースケ.	(教室の) 生徒.		無音.
75	0.14.45	教室のユウ. セーラー服 姿のユウ.	ユウ.	(教室の) 生徒.		無音.
76	0.14.50	授業の始まりのカット.	ユウ. (先生).	(教室の) 生徒.		先生が入ってくる音.
77	0.15.07	ユウに制服のことを尋ね る先生のカット.	先生. (ユウ).	(教室の) 生徒.	ユウと先生の, ユウの制服につ いての会話.	
78	0.15.15	ユウのカット.	ユウ. (先生).	(教室の) 生徒.	同上.	
79	0.15.19	ヨースケのカット. 画 面右端にユウが映ってい る.	ヨースケ. ユウ. (先生).	(教室の) 生徒.	同上.	
80	0.15.24	ユウと会話する先生の カット.	先生. (ユウ).	(教室の) 生徒.	同上.	
81	0.15.36	ユウのカット. ユウと ヨースケは, 後で進路指 導室に来るように言われ る.	ユウ. (先生). (ヨー スケ).	(教室の) 生徒.	同上. その後, 先生とヨースケ の会話.	
82	0.15.43	ヨースケのカット. 画 面右端にユウが映ってい る.	ヨースケ. ユウ. (先生).	(教室の) 生徒.	先生とヨースケ の会話.	
83	0.15.48	進路指導室前の廊下の カット. 順番を待つヨー スケ. ユウが出てきて ヨースケの前を通り過ぎ る.	ヨースケ (シルエット). ユウ (シルエット).	進路指導室前の廊下.		無音.
84	0.16.06	進路指導室の先生とヨー スケ.	先生. ヨー スケ (後ろ 向き).	進路指導室.	先生とヨースケ の, 進路に関す る会話.	
85	0.16.56	水門脇に座ってギターを 弾くヨースケ.	ヨースケ.	水門の脚柱 (ここがどこで あるかを特定可能にする唯 一のもの). 草地.		虫の音. 水の音. ヨース ケのギター の音.
86	0.17.02	ユウが通りかかる.	ユウ.	空. 草地.		虫の音. 水の音. ギター の音.
87	0.17.15	(ギターをやめて) ユウ を見るヨースケ.	ヨースケ.	空. 草地.		虫の音. 水の音.
88	0.17.18	ユウのカット.	ユウ.	空.		虫の音. 水の音.
89	0.17.23	並んで座るユウとヨー スケ.	ユウ. ヨー スケ.	空. 草地. 一部コンクリ ートの地面.		虫の音. 水の音.

90	0.17.34	曇天の空のカット.		雲. 草地.		虫の音. 水の音.
91	0.17.37	ユウのカット. 右端にヨースケの体の一部とギターが映っている.	ユウ(F). ヨースケ.	空(少しボケ気味). 草地(少しボケ気味).		虫の音. 水の音. ギターの音.
92	0.17.51	ユウのカット.	ユウ(F). (ヨースケ).	空(O). 草地(O).	0.18.09 ユウ「においかいってみる?」. 0.18.12ヨースケ「えっ?」.	虫の音. 水の音. ギターの音.
93	0.18.23	ユウのカット. 画面右下にヨースケの右の膝が映っている. 0.18.24 ユウの横をギターが横切る.	ユウ(F). ヨースケ.	空(O). 草地(O).		虫の音. 水の音. ヨースケがギターを下に置いたときの音.
94	0.18.40	ユウのカット. 0.18.40 ヨースケ, 立ち上がる. 0.18.53 ユウが立ち上がる. ユウ, そのまま走り去ろうとする. ユウが走る方向へ, ユウより先にカメラを向ける流し撮り.	ユウ. ヨースケ.	空(O). 草地(O).		虫の音. 水の音.
95	0.18.57	ユウのカット. ユウの口の動きによって, ユウがヨースケに向かって何かを言ったことが分かる. このカットは無音であるので何を言っているのかは分からない.	ユウ.	空.	不明.	無音.
96	0.19.13	立ちつくす, ヨースケのカット. 画面左手に, 去っていくユウの姿が小さく映っている.	ヨースケ. ユウ.	空. 草地. ギター.		虫の音. 水の音.
97	0.19.19	空のカット. 下に, 草の一部が小さく映っている. 0.19.21 多重露出によりユウが出現. 95のユウが何かを言った箇所の映像を重ねている. 0.19.29 ユウ, 去る.	(ユウ).	空. 草の一部.	0.19.29 ユウ「変態野郎」.	虫の音. 水の音. 0.19.21 無音となる. 0.19.29 虫の音. 水の音.
98	0.19.31	ヨースケのカット.	ヨースケ.	空. 草地. ギター. コンクリートの地面.		虫の音. 水の音. 走り去るユウの足音.
99	0.19.37	曇り空と渡り廊下のカット. 雲の移動.		曇り空. 渡り廊下. 渡り廊下の手すり.		虫の音. 水の音.

## シーン8 (100-108)

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
100	0.19.41	ユウのカット.	ユウ. (ユウの姉).	家の中.	0.19.52 ユウ「その曲気に入	水の音. ユウの姉がヨースケのギターの旋律を口ずさむ声. ドアの音.
101	0.19.53	ユウの姉のカット.	ユウの姉. (ユウ).	台所.	った?」.	ユウの姉がタオルで手を拭く音.



102	0.20.02	ユウのカット.	ユウ. (ユウの姉).	家の中.	0.20.03 ユウ「ヨースケがお姉ちゃんに話があるって. 明日の夕方5時に水門のところで待ってるって」.	わずかに水がはねる音.
103	0.20.13	ユウの姉のカット.	ユウの姉. (ユウ).	台所.		わずかに布巾を絞る音.
104	0.20.17	ユウのカット.	ユウ. (ユウの姉).	家の中.	0.20.18 ユウ「わたしもよくわかんないけど.	水滴の音.
105	0.20.23	ユウの姉のカット.	ユウの姉. (ユウ).	台所.	ま, 行ってあげて」. 0.20.29 ユウの姉「うん」.	
106	0.20.32	ユウのカット.	ユウ. (ユウの姉).	家の中.	0.20.33 ユウ, うなづく.	水滴の音.
107	0.20.36	ユウの姉のカット.	ユウの姉. (ユウ).	台所.		
108	0.20.39	ユウのカット. 0.21.08 ユウ, 去る. 奥にユウがいつも座っている場所の窓とカーテンが見える.	ユウ. (ユウの姉).	家の中.	0.20.39- ユウとユウの姉の会話. 略.	0.21.00 水道から水が出る音 (あるいはドアの音. 特定できない. ドアの音なら, ユウの姉が勝手口から出て行ったと思われる).

## シーン9 (109-115)

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
109	0.21.11	空のカット.		青空. 雲. 画面右下に電柱と木の枝が映る.		鳥の鳴き声など. (今までに用いられたことのない新しい音である).
110	0.21.15	ユウのカット.	ユウ.	教室. (教室の) 生徒.		生徒の話し声.
111	0.21.22	ヨースケのカット.	ヨースケ.	教室. (教室の) 生徒.		生徒の話し声.
112	0.21.27	水門脇のヨースケのカット.	ヨースケ.	空. 山の稜線. 草地. 電線柱. 水門の脚柱. 鳥が画面を横切る.		車の音. 虫の音. 鳥のさえずり.
113	0.21.41	玄関のカット.	(ユウ).	鏡. 入ってきた人の前髪などが映っている.		ドアの音. (鏡の人物が動く). ユウが入ってくる.
114	0.22.05	時計のカット.		時計. 時計の振り子. 時計の針は, 4時44分を差している.		時計のチクタクと言う音. (これは, 今までに用いられたことのない新しい音である).
115	0.22.09	3分割の画面のユウのカット. これは, 何度も出てきたカットでありながら, 全く新しいものとして, ここでは示されている.	ユウ.			時計の音.

## シーン10 (116-121)

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
116	0.22.16	空のカット.		青空. 雲. 画面右下に電柱と木の枝が映る.		生徒の声.

117	0.22.20	ヨースケのカット.	ヨースケ.	学校の中.		生徒の声. 扉の音.
118	0.22.25	ユウが赤い扉から出て来る.	ユウ.	赤い扉.		生徒の声. 扉の音.
119	0.22.29	ヨースケのカット.	ヨースケ. (ユウ).	学校の中.	ヨースケとユウの会話.	生徒の声.
120	0.22.37	ユウのカット.	ユウ. (ヨースケ).	赤い扉.	ヨースケ「お姉さん, 知ってたよ. あの曲」. ユウ「ヨースケがおんなじとこばっか弾くから,	生徒の声.
121	0.22.48	ヨースケのカット. 0.23.02 ユウがヨースケの前を足早に横切っていく.	ヨースケ. ユウ.	学校の中.	家で口ずさんだかも」.	生徒の声.

## シーン 11 (122-143)

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
122	0.23.08	曇り空と渡り廊下のカット. 雲の移動.		薄い雲と青空. 渡り廊下. 渡り廊下の手すり.		虫の音.
123	0.23.11	ユウの姉とヨースケのカット.	ユウの姉. ヨースケ.	空. 草地. コンクリートの地面. 山 (ここは既に何度も出てきた場所であるが, 山が見えることによって, 新しいものとして鑑賞者に示されている).		虫の音.
124	0.23.19	川のカット. カット 51 を連想.		川. 草木.		川の音. 車の音.
125	0.23.22	ユウの姉とヨースケのカット.	ユウの姉 (O). ヨースケ (F).	空 (O). 草地 (O).		焦点の合わせ方は, 92-94 を連想させる.
126	0.23.28	空と橋と階段のカット.		空. 階段. 橋 (橋は, ユウとヨースケがいつも一緒にいた場所の象徴であり, このカットは, ユウとヨースケに強く関係付けられている. 又, このシーンの中に配置される事によって, 鑑賞者に, 今, ユウが不在であるという事を印象付ける).		ヨースケのギター之音.
127	0.23.33	ユウの姉とヨースケのカット.	ユウの姉 (F). ギターを弾くヨースケ (F).	空 (O). 草地 (O).		ヨースケのギター之音.
128	0.23.57	ユウの姉とヨースケのカット.	ユウの姉. ヨースケ.	空. 山. 電線柱. 草地. コンクリートの地面.		川の音など.
129	0.24.04	3分割の画面のユウのカット.	ユウ.	室内.		水道の音 (ユウの姉を連想させるもの).
130	0.24.10	台所の, ユウの姉のカット.	ユウの姉.	台所.		水道の音. ユウの姉, ヨースケの曲を口ずさむ.
131	0.24.23	3分割の画面のユウのカット.	ユウ.	室内.		水道の音. やがてやみ, 食器の音に変わる. ユウの姉, ヨースケの曲を口ずさむ.

132	0.24.35	ユウの姉のカット.	ユウの姉.	台所.		食器の音. ユウの姉, ヨースケの曲を口ずさむ.
133	0.24.43	3分割の画面のユウのカット.	ユウ.	室内.		ユウの姉, ヨースケの曲を口ずさむ.
134	0.24.53	道行く, ユウのカット.	ユウ.	夕暮れ. 道路.		虫の音.
135	0.25.00	道行く, ユウのカット. 道路の向こうに歩くユウが小さく映る.	ユウ.	夕暮れ. 空. 道路. 木.		虫の音.
136	0.25.14	川辺の, ユウの姉のカット.	ユウの姉(F).	川と草木(O).		風の音. 水の音. 車の音. 29-30を連想させる.
137	0.25.20	河岸のコンクリートに座るユウの姉のカット.	ユウの姉.	草木. 川. コンクリート. 草地.	ユウの姉, ヨースケのギターの旋律を口ずさんだ後, 川に向かって「いい曲でしょ. 妹のユウの友達のヨースケ君て子が作った曲」。この後, ユウの姉, 同じ旋律を再び口ずさむ.	風の音. 水の音. 車の音. 29-30を連想させる.
138	0.26.03	歩くユウのカット. ユウ, やがて立ち止まる.	ユウ.(ヨースケ).	白い壁.	ヨースケ「あの,」.	ユウの足音. 生徒の声.
139	0.26.13	ヨースケのカット.	ヨースケ.(ユウ).	学校の廊下. 赤い扉など.	ヨースケ「聞きたいことがあるんだけど」。ユウ「なに？」.	生徒の声.
140	0.26.18	ユウのカット.	ユウ.(ヨースケ).	白い壁.	ヨースケ「ここが終わったら, 水門のところで待ってる」.	生徒の声.
141	0.26.21	ヨースケのカット. 画面左端, ユウがわずかに映っている.	ヨースケ. ユウ.	学校の廊下. 赤い扉など.	ヨースケとユウの会話.	生徒の声.
142	0.26.27	ユウのカット. 会話の後, ユウが移動し始める.	ユウ.(ヨースケ).	白い壁.	ヨースケとユウの会話.	生徒の声.
143	0.26.38	去るユウとヨースケ. ユウ, ヨースケの前を通り過ぎ, 赤い扉を開けて中へ入って行く. ヨースケは反対の方へ去る.	ユウ. ヨースケ.	学校の廊下. 赤い扉など.		生徒の声.

## シーン 12 (144-162)

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
144	0.26.49	空のカット. 雲の移動.		一面, 雲.		無音.
145	0.26.53	座るヨースケのカット.	ヨースケ. やがて, ユウがやってくる.	空. 草地. (この空と草地の構図は 92-93 を連想させる). ギター.	0.27.29, ヨースケ「ユウ, ユウはさ,」.	川の音, 車の音など.
146	0.27.37	ユウとヨースケ.	ユウ. ヨースケ.	空. わずかに草地在映る.	0.27.39, ヨースケ「あの,」. 0.27.48, ユウ「なに?」. 0.27.49, ヨースケ「えっ」.	川の音, 車の音など.

147	0.28.03	ユウとヨースケ.	ユウ. ヨースケ.	空.	0.28.04, ヨースケ「お姉さんはさ,」. 0.28.05, ユウ「うん」. 0.28.16, ヨースケ「いや, なんでもない」. 0.28.18, ユウ「なに?」. 0.28.19, ヨースケ「ごめん」. 0.28.22, ユウ「姉ちゃんがどうしたの?」. 0.28.23, ヨースケ「ん?」. 0.28.25, ヨースケ「なんでもない」. 0.28.28, ヨースケ「ごめん」.	川の音, 車の音など.
148	0.28.33	空と渡り廊下のカット.		空. 渡り廊下. 渡り廊下の手すり.		川の音, 車の音など.
149	0.28.39	ユウとヨースケ.	ユウ. ヨースケ.	空. 草地. ギター.	0.28.46, ユウ「どうしたの?」. 0.28.47, ヨースケ「ん?」. 0.28.48, ユウ「どうしたの?」. 0.28.51, ヨースケ「別に」.	川の音, 車の音など.
150	0.28.57	ユウとヨースケ.	ユウ. ヨースケ.	空.		川の音, 車の音など.
151	0.29.08	空と渡り廊下のカット.		空. 渡り廊下. 渡り廊下の手すり.		川の音, 車の音など.
152	0.29.13	ユウとヨースケ.	ユウ (F). ヨースケ (F).	空 (O). わずかに草地 (O).		車の音など.
153	0.29.25	ユウとヨースケ.	ユウ (F) (顔が映らず体のみ). ヨースケ (F) (顔が映らず体のみ).	わずかに空 (O). 草地 (O). コンクリートの地面 (F).		車の音, 虫の音など.
154	0.29.29	ユウとヨースケ. やがて, ヨースケ, 立ち上がる. その後しばらくして, ユウも立ち上がり, ヨースケの横へ並ぶ.	ユウ (F). ヨースケ (F).	空 (O).		車の音, 虫の音など.
155	0.30.20	ユウとヨースケ.	ユウ (F) (肩から足まで). ヨースケ (F) (肩から足まで).	空 (O).		車の音など.
156	0.30.27	ユウとヨースケのカット. 0.30.34 ヨースケ, ユウの前へ移動し, 二人が向き合う. 0.30.52 ヨースケ, 再び, ユウの隣へ戻る.	ユウ. ヨースケ.	空.	0.30.46 ユウ「おなじくらいだね」. 0.30.47 ヨースケ「おなじくらいだ」.	車の音など.

157	0.30.58	空と渡り廊下のカット.		青空. 渡り廊下. 渡り廊下の手すり.		車の音, 川の音など.
158	0.31.04	ユウとヨースケ.	ユウ. ヨースケ.	空.	0.31.09 ヨースケ, 右腕で, 前を差す. ユウ「うん?」. ヨースケ, 再び前を差す. ユウ「なに?」. ヨースケ, 再度前を差す. ユウ「なに?」. ヨースケ「手出して」. 二人で右腕を前へ伸ばす.	車の音, 川の音など.
159	0.31.25	前方を指差すユウとヨースケ.	ユウ. ヨースケ.	空.	ヨースケ「ちゃんとかうやって, ちゃんとかうのぼして, こう」.	車の音など.
160	0.31.34	前方へ向かって腕を伸ばすユウとヨースケ.	ユウ. ヨースケ.	空.	ユウ「何が見えるの?」. ヨースケ「ちゃんと, この指先にぐって」.	車の音など.
161	0.31.42	ユウとヨースケの指と腕のカット. やがて, ユウが笑い出して手を下ろす. ヨースケも下ろす.	ユウの右手と右の腕. ヨースケの右手と右の腕.	空.		車の音など.
162	0.31.47	笑うユウと, ヨースケのカット. 0.32.53 ヨースケ, ユウの前へ移動. 0.33.23 ユウとヨースケがキスをする. 0.34.16 ヨースケ, 再びユウの横へ移動する. 0.34.28 ヨースケ, ギターを片付け始める (ギターは画面に写されておらず, ヨースケがかがむ姿のみが描かれる). ユウは泣き始めている.	ユウ. ヨースケ.	空.		車の音など. 0.34.28 ヨースケの動く音. ギターを動かす音. (ヨースケの) 足音. (ヨースケの) 駆け足の音. 残されたユウは, 独り, 泣いている.

## シーン 13 (163-170)

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
163	0.35.05	空のカット (日没). 雲の移動.		空. 雲.		無音. 0.35.08 環境音.
164	0.35.09	曇り空と丘 (シルエット) のカット. 日没. 0.35.10 左の木の向こうから, 歩く人のシルエットが出現.		曇り空. 木 (シルエット). 丘 (シルエット).		環境音 (虫の音など).
165	0.35.22	ユウのシルエットと日没の空. 0.35.25 ユウ, 歩くのをやめる. 0.35.29 ユウ, 再び, 歩き始める. 0.35.31 ユウ, 走り始める. 0.35.39 カメラが上へと向きを変えて行き, 走るユウを離れ, 上方の空を写す. 0.35.40 カメラは完全に日没の空のみを写す.	ユウ (シルエット). シルエットから, ユウは制服を着ておらず, 私服姿であることが分かる.	日没の空.		環境音. 0.35.29 ユウの足音. ユウの息遣い. 環境音と足音, 166 との変わり目で, 音量が小さくなり, 166 でやがて消える.

166	0.35.41	立ち止まるユウの顔のカット。0.36.08, 向こう向きになって歩き始めるユウ。	ユウ。	夕闇。	0.35.56 ユウ「なんであたしは泣いたんだろう」。0.36.00 ユウ「なんで泣くことを止めなかったんだろう」。0.36.08 ユウ「なんで」。	0.35.41-0.35.51, 165のユウの足音と環境音。0.35.51, 165の音が完全に消失。0.35.41-0.35.51, ユウは、カットの始まりから動かず立ち止まっており、ユウの足音がするというのは、物理的には不自然。前のシーンの出来事から逃れるように走った己を振り返る、ユウの心の中を表現しようとしているのであろう。0.35.51-0.35.56, 無音。0.36.11, 風の音, 水の音(水道の音か川の音か即座には判断できず)。0.36.15, ヨースケの旋律を口にする姉の声。わずかに一音ほど。これが、ユウの姉の声であることの認識は、声そのものによってでなく、水の音によって成立していると考えられる。ユウの姉が実際に映像の中で歌い始めるのは167の0.36.24においてであり、この音は不連続なものとして、独立させられている。この音は、なぜ泣いたのかという、ユウの問いに対する答えを暗示し、ユウの気持ちを示唆するように思われる。いずれにせよ、空と渡り廊下のカットによって形成された、ユウの姉のいない、ユウとヨースケだけの世界の広がり、もはや消失する。
167	0.36.17	河岸のコンクリートに座るユウの姉のカット。	ユウの姉。	草木。川。道。草地。		風の音。水の音。0.36.24, ヨースケの旋律を口ずさむ姉の声。0.36.28, 車の音など。
168	0.36.34	ユウの姉のカット。	ユウの姉 (F)。	コンクリートの階段 (O)。 画面左上一部草木 (O)。		風の音。水の音。車の音。0.36.40 再びヨースケの旋律を口ずさむ姉の声。
169	0.36.50	空のカット。雲の移動。		青空。雲。		風の音。水の音。車の音など。
170	0.36.54	ユウの姉のカット。	ユウの姉 (F)。	コンクリートの階段 (O)。 画面左上一部草木 (O)。		風の音。水の音。車の音。ヨースケの旋律を口ずさむ姉の声。カラスの鳴き声。

## シーン 14 (171-197)

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
171	0.37.34	空のカット. 雲の移動. 風に揺れる草.		曇り空. 草.		無音.
172	0.37.37	3分割の画面のユウのカット.	ユウ (ユウは部屋の前の廊下に居る).	家の中.		無音
173	0.37.43	台所の, ユウの姉のカット.	ユウの姉. (ユウ).	台所.	0.37.47 ユウ「ただいま, お姉ちゃん」. 0.37.53 ユウの姉「お帰り」.	初め, 無音. 0.37.49 水滴の音.
174	0.37.54	3分割の画面のユウのカット.	ユウ. ユウの姉.	家の中.	0.37.55 ユウ「ただいま」. 0.38.11 ユウの姉「ユウ」. ユウ「ん?」. ユウの姉「今日のごはんどうしようか」. ユウ「なんでもいいよ」.	0.38.05, ユウの姉と思われる人影が, 画面の手前を右から左へ横切る.
175	0.38.20	台所のカット. 初め誰もいない. 0.38.22, ユウの姉がりんごを両手に持って入ってくる.	ユウの姉. (ユウ).	台所.	0.38.22 ユウの姉「とりあえず, りんご食べようか」. ユウ「うん」.	0.38.22, 水滴の音.
176	0.38.27	3分割の画面のユウのカット.	ユウ.	家の中.		0.38.29, りんごの皮をむく音.
177	0.38.33	台所の, ユウの姉のカット.	ユウの姉.	台所. 姉が手に持つ包丁.		りんごの皮をむく音.
178	0.38.40	3分割の画面のユウのカット. 0.38.44, ユウは立ち上がって移動する. 画面からユウの姿が消える.	ユウ.	家の中.		りんごの皮をむく音.
179	0.38.50	台所の, ユウの姉とユウ. ユウが台所へやってきて皿を取り姉と会話する.	ユウの姉. ユウ.	台所.	ユウの姉とユウの会話. 略.	ユウの音. りんごの皮をむく音. 皿の音.
180	0.39.10	台所の入口のカット. 姉が台所を出る. ユウも続いて出る. その後は無人の台所の入口が写され続ける.	ユウの姉. ユウ.	台所.	0.39.22 ユウ「いただきまーす」.	環境音 (皿などの音が混ざり合っている). 0.39.18, テーブルに皿を置く音.
181	0.39.27	学校の廊下に立つユウのカット. 0.39.31, ユウの前を男子学生が通り過ぎる. それはヨースケであると思われるが, 映像から特定するにはことは出来ない. 彼はユウの前を通り過ぎそのまま画面から消える. 会話によって, 彼がそこで立ち止まったことが分かる.	ユウ. (ヨースケ).	学校の廊下.	0.39.35 ヨースケ「ちょっといい?」. 0.39.37 ユウ「うん」. この後, ユウの姿は, 廊下を曲がって画面から消える.	環境音 (生徒の立てる音など).
182	0.39.41	181とは別の廊下のカット.	ユウ. ヨースケ (一瞬わずかに歩くヨースケの肩など体の一部が画面に映る).	学校の廊下.		場所が移ったことを示す, それまでとは異なる環境音. ユウとヨースケの歩く音.

183	0.39.59	ヨースケのカット.	ヨースケ. ユウ.	学校の廊下.	ユウ「ヨースケと 会ってたころのお 姉ちゃん、鼻歌と か歌っていたり、な んか…」.	環境音.
184	0.40.11	ユウのカット.	ユウ.	学校の廊下.	ユウ「お姉ちゃ んと会ってあげて よ」.	環境音.
185	0.40.21	ヨースケのカット.	ヨースケ.	学校の廊下.	ヨースケ「うん」.	環境音.
186	0.40.29	ユウのカット.	ユウ.	学校の廊下.	ユウ「映画とか見 に行けば？」.	環境音.
187	0.40.34	ヨースケのカット.	ヨースケ.	学校の廊下.	ユウ「今度の金曜 日の5時に映画館 の前で」. ヨースケ 「いや」.	環境音.
188	0.40.41	ユウのカット.	ユウ.(ヨ ースケ).	学校の廊下.	ヨースケ「金曜日 の5時に水門のと こで待ってる、そ う伝えといて」. ユ ウ「うん」.	環境音.
189	0.41.01	ヨースケのカット.	ヨースケ. ユウ.	学校の廊下.	ユウ「分かった」. ヨースケ、うなず く. それから移動 し始める. カメラ はヨースケを追い 、ユウの姿が画面 に映る. ヨースケは 、ユウの前を通り過 ぎる.	環境音. ヨースケの足 音.
190	0.41.19	台所の、ユウの姉のカット. (これまでとは異なる、新 しい位置にカメラがセット され、台所が写される).	ユウの姉.	台所. 廊下. 洗面台.		皿の音.
191	0.41.25	ユウのカット.	ユウ.	家の中.		ユウの姉が台所仕事を する音.
192	0.41.28	台所の、ユウの姉のカット.	ユウの姉.	台所.		台所の音.
193	0.41.33	ユウのカット.	ユウ.	家の中.	ユウ「ヨースケが 、今度の金曜日、会 いたいって」.	台所の音.
194	0.41.39	台所の、ユウの姉のカット.	ユウの姉.	台所.	ユウの姉、うなず きながら、「うん」.	台所の音.
195	0.41.45	ユウのカット.	ユウ.	家の中.	ユウ「5時に」.	水道の流れる音.
196	0.41.50	台所の、ユウの姉のカット.	ユウの姉. (ユウ).	台所.	ユウ「水門のと ころで待ってるっ て」. ユウの姉水道 を止め、手を拭く. 「うん、分かった」.	台所の音(水道が止め られることによって際 立たせられる).
197	0.41.58	ユウのカット.	ユウ.	家の中.	ユウ「うん」.	台所の音.



## シーン 15 (198-221)

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
198	0.42.07	空のカット. 雲の移動.		青空. 雲. 夕日. 画面下部に山のシルエット.		無音.
199	0.42.15	家並みの前を行くユウの姉.	ユウの姉.	家並み. 木.		環境音 (子供の遊び声, バスケットボールをドリブルする音など).
200	0.42.26	ヨースケのカット.	ヨースケ.	空. 山並み. 草地. 電線柱.		虫の音などの環境音. 空, 山, 草地, 電線柱, 虫の音の環境音は, 112を連想させるもの. ヨースケが姉と会う時, 独り, 時計の音を聞くユウを描写したシーンと関連付けられる.
201	0.42.33	3分割の画面のユウのカット. しかし, カットの始まりは, 無人である. 0.42.40, ユウが画面の中に入って来る. ユウは左手に学校鞆を持っており, 学校から帰宅したところだと分かる.	ユウ.	家の中.		ドアを開ける音. 鞆の音.
202	0.42.48	ヨースケのカット.	ヨースケの顔 (F).	空 (O). 草地 (O).		虫の音などの環境音.
203	0.42.55	橋に差し掛かるユウの姉のカット.	ユウの姉.	道路. 空. 山. ガードレール. 車.		環境音 (虫の音, 車の音など).
204	0.42.58	橋を渡るユウの姉のカット. 0.43.04, ユウの姉, 左側を見て歩速を緩める.	ユウの姉.	空. 山. ガードレール.		環境音.
205	0.43.05	河岸のコンクリートのカット. 手持ち撮影. 画面が揺れている. この揺れは, ユウの姉の視点を表すのであろう.	コンクリートの段に座る人.	草木. 川. コンクリートの段. 道.		無音.
206	0.43.10	橋に立ち止まる姉のカット.	ユウの姉.	空. ガードレール.		無音. 0.43.11, 車の音.
207	0.43.11	橋の始まりのカット (203と同じ場所).		道路. 空. 山. ガードレール. 軽トラック.		車の音.
208	0.43.13	河岸のコンクリートのカット. 手持ち撮影. 0.43.16, カメラは下方にすばやく動かされる.	コンクリートの段に座る人.	草木. 川. コンクリートの段. 道.		無音.
209	0.43.17	鳥と空のカット.		鳥. 青空. 雲. カットの終わりまで, 画面下部に山が一瞬写る.		無音.
210	0.43.24	3分割の画面のユウのカット.	ユウの顔 (シルエット).	室内.		かすかな環境音. 0.43.33, 振り子時計の5時を告げる音 (このカットで1回音が鳴る).
211	0.43.34	台所のカット. (190と同じカメラアングル).		台所. 廊下. 洗面台.		かすかな環境音. 振り子時計の5時を告げる音 (このカットで4回音が鳴る).

212	0.43.43	曇り空と渡り廊下のカット. 雲の移動.		渡り廊下の手すり (手すりのみ). 曇り空.		無音.
213	0.43.50	壁の前に立つユウのカット.	ユウ.	壁.		無音.
214	0.43.55	ユウの手のカット. 前に組んだユウの手だけが写される.	ユウの手.	壁.		無音.
215	0.43.59	寝台に横たわるユウの姉のカット.	ユウの姉.	寝台など.		無音.
216	0.44.05	並んで立つユウとヨースケ.	ユウ. ヨースケ.	窓. 壁.		無音.
217	0.43.13	点滴のカット.		点滴薬など.		無音.
218	0.44.19	横たわるユウの姉.	ユウの姉.	壁.	0.44.23, ユウの語り. 「事故は, 金曜日の5時に姉がヨースケに会いに行く途中で起きた」.	無音.
219	0.44.32	ユウの顔.	ユウの顔.	壁.		環境音.
220	0.44.40	歩くユウとヨースケ.	ユウ. ヨースケ.	空. 山. 木. 草地.		219とは異なる, 虫の音などの環境音. ユウとヨースケの歩く音.
221	0.44.49	歩くユウとヨースケ.	ユウ. ヨースケ.	薄日. 空. 山. 木. 電線など.	0.44.51, ヨースケ「ユウ. ユウ「ん?」. 0.44.54, ヨースケ「おまえ,」. 0.44.57, 「自分のせいにすんなよ」. 0.45.13, ユウ「うん」. 0.45.23, ユウ「あの曲さ, 随分先まで出来たんだね」. 0.45.32, ユウ「ヨースケの弾いてた曲」. 0.45.42, ユウ「姉ちゃんが台所で歌ってた」. 0.46.01, ユウ「いつかさ, 全部出来たら聞かせてね」. 0.46.10, ヨースケ「うん」.	環境音. 二人の歩く音. 0.45.41, カメラは, ユウを追い始め, ヨースケは画面から消えて行く. 0.45.45, 雨の音. 0.45.48, ユウが雨に気づき, 空を見上げる. 0.45.56, ユウ, ヨースケの方を振り返る. 0.46.11, ユウ, 微笑みながら再びヨースケを見る. やがて歩速を速める. 0.46.20, ぼかされた木の葉の背景の中にユウの顔がアップで写される.

## 後半部

シーン 16 (222-238)

シーン 17 (239-275)

シーン 18 (276-306)

シーン 19 (307-309)

シーン 20 (310-339)

シーン 21 (340-357)

シーン 22 (358-428)

シーン 23 (429-439)

シーン 24 (440-450)

シーン 25 (451-463)

シーン 26 (464-475)

シーン 27 (476-515)

## 映像の構成 (空のカット)

(カット番号の下の (A), (B), (C) の記号は, 本稿で扱った 3 種類の空のカットの種類分けを表している.)

## 前半部

## シーン 1 (1-12)

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
3 (A)	0.01.05	空のカット. 2 からクロス フェード. 雲の移動.		空. 雲.		虫の音. ユウの鼻歌. ギター之音.

## シーン 2 (13-15)

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
13 (B)	0.02.46	空のカット. 夕暮れ.		電柱と電線. 雲. 山.		虫の音.

## シーン 3 (16-27)

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
16 (A)	0.03.19	空のカット. 雲の移動.		青空. 雲.		授業の音. (先生の話す) 声.

## シーン 4 (28-46)

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
28 (A)	0.04.19	空のカット. 雲の移動.		画面の殆どを雲が覆う. わ ずかに青空.		無音.

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
31 (B)	0.04.32	空のカット. 曇天の空.		画面の下部に雑草がわず かに見受けられる.		虫の音. 風の音.

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
46 (B)	0.06.30	空のカット. わずかに雲の 移動.	(ユウ・ユ ウの姉).	殆ど雲に覆われた空. 木. 雑草.	ユウの姉「ユウ は?」. ユウ「飲 む」.	虫の音. 急須のふたの 音. 湯を注ぐ音.

## シーン 6 (56-70)

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
56 (A)	0.08.15	空のカット. わずかに移動 する雲.		青空. 雲.		川の音. 車の音. 風の音.

## シーン 7 (71-99)

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
71 (B)	0.14.09	空のカット.		曇天の空. 画面下部に木 の一部.		無音.

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
90 (B)	0.17.34	曇天の空のカット.		雲. 草地.		虫の音. 水の音.

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
97 (B)	0.19.19	空のカット. 下に, 草の一部が小さく映っている. 0.19.21 多重露出によりユウが出現. 95のユウが何かを言った箇所の映像を重ねている. 0.19.29ユウ, 去る.	(ユウ).	空. 草の一部.	0.19.29ユウ「変態野郎」.	虫の音. 水の音. 0.19.21 無音となる. 0.19.29 虫の音. 水の音.

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
99 (C)	0.19.37	曇り空と渡り廊下のカット. 雲の移動.		曇り空. 渡り廊下. 渡り廊下の手すり.		虫の音. 水の音.

## シーン 9 (109-115)

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
109 (B)	0.21.11	空のカット.		青空. 雲. 画面右下に電柱と木の枝が映る.		鳥の鳴き声など. (今までに用いられたことのない新しい音である).

## シーン 10 (116-121)

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
116 (B)	0.22.16	空のカット.		青空. 雲. 画面右下に電柱と木の枝が映る.		生徒の声.

## シーン 11 (122-143)

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
122 (C)	0.23.08	曇り空と渡り廊下のカット. 雲の移動.		薄い雲と青空. 渡り廊下. 渡り廊下の手すり.		虫の音.

## シーン 12 (144-162)

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
144 (A)	0.26.49	空のカット. 雲の移動.		一面, 雲.		無音.

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
148 (C)	0.28.33	空と渡り廊下のカット.		空. 渡り廊下. 渡り廊下の手すり.		川の音, 車の音など.

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
151 (C)	0.29.08	空と渡り廊下のカット.		空. 渡り廊下. 渡り廊下の手すり.		川の音, 車の音など.

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
157 (C)	0.30.58	空と渡り廊下のカット.		青空. 渡り廊下. 渡り廊下の手すり.		車の音, 川の音など.

## シーン 13 (163-170)

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
163 (A)	0.35.05	空のカット (日没). 雲の移動.		空. 雲.		無音. 0.35.08 環境音.

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
169 (A)	0.36.50	空のカット. 雲の移動.		青空. 雲.		風の音, 水の音, 車の音など.

## シーン 14 (171-197)

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
171 (B)	0.37.34	空のカット. 雲の移動. 風に揺れる草.		曇り空. 雲.		無音.

## シーン 15 (198-221)

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
198 (B)	0.42.07	空のカット. 雲の移動.		青空. 雲. 夕日. 画面下部に山のシルエット.		無音.

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
209 (B)	0.43.17	鳥と空のカット.		鳥. 青空. 雲. カットの終わりで, 画面下部に山が一瞬写る.		無音.

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
212 (C)	0.43.43	曇り空と渡り廊下のカット. 雲の移動.		渡り廊下の手すり (手すりのみ). 曇り空.		無音.

## 後半部

## シーン 16 (222-238)

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
224 (A)	0.46.43	空のカット. 雲の移動. 223 からクロスフェード.	(ヨースケ).	青空. 雲.		ピアノの BGM (0.46.49 まで). 0.46.52, ギターの音. 熟練した, 鮮明なギターの音に, 鑑賞者は, 成長したギタリストとしてのヨースケの存在を予感させられる. しかし, 228 において, そのギターは, ヨースケとは異なる弾き手によって弾かれていることが判明し, 鑑賞者の期待は裏切られる.

## シーン 21 (340-357)

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
343 (B)	1.06.40	空のカット.		夜空. 星又は人工衛星. 画面下部に草の一部.		無音.

## シーン 22 (358-428)

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
381 (B)	1.11.00	空のカット.		夜空. 星又は人工衛星. 画面下部に遠山, 草木など.		無音.

## シーン 23 (429-439)

	時間		人物	背景など	せりふ	その他
435 (B)	1.21.30	空のカット.		空. 雲. 画面左下に, 少しだけ建物の一部が斜めに写されている.		明らかに, この空のカットにおける建物の構図は, 212 における渡り廊下の手すりの構図と関係付けられている. この空のカットは, 姉のことにについてヨースケに語るユウの心を表すものだろう.